

青少年のインターネット・リテラシー指標
〔実態調査編〕

平成24年9月

総務省 情報通信政策研究所

エグゼクティブサマリー

1. 本調査の背景

平成23年度に総務省情報通信政策研究所においては、青少年のリテラシー向上施策を、今後、PDCA サイクルにて効果的に行っていくために、将来の国際的な展開も視野に入れつつ、青少年のインターネット・リテラシーを可視化するテストを含む青少年のインターネット・リテラシー指標の枠組みを開発し、これを ILAS(Internet Literacy Assessment indicator for Students)と名付けた。

開発したテストの有効性等を確認するために、プレテストを全国の高校等 1 年生を対象に 600 人規模で実施したところ、テストの有効性等が確認できたとともに、青少年のインターネット・リテラシーの状況を一定程度可視化することができた。

しかしながら、問題文や選択枝に改善を要するものがあったこと、また、受験者数が 600 人程度と小規模であったこと、さらにはテストの結果を分析するためにより多くのアンケート項目が必要であることなどが課題として残された。

2. 本調査の目的と調査方法

本調査では、上記の昨年度の課題を踏まえ、テスト問題を改善し、より規模を拡大して青少年のインターネット・リテラシーを可視化し、さらにアンケート項目を増やすことで、より深く分析し、ILAS として取りまとめることを目的とした。

具体的には、本調査においては、プレテストにて実施したテスト問題の一部を修正又は入れ替えし、インターネット環境等を問うアンケートと共に、全国 23 校の協力高校等における総計約2,500名の高校1年生等(15 歳相当)を対象にCBT方式で実施した。

3. 調査結果のポイント

(1) アンケート結果

- ・スマートフォンの保有率は59%、インターネットを利用する際に最もよく利用する機器もスマートフォンと回答した者が48%と、青少年においてスマートフォンの保有・利用は他の機器に比較し突出している。
- ・スマートフォン、携帯電話・PHSを保有していると回答した者のうち、フィルタリングサービスを知っていると回答した者は62%、フィルタリングサービスを利用していると回答した者は44%。
- ・スマートフォンを保有していると回答した者のうち、アプリケーションによる情報漏洩の危険性を認識していると回答した者は61%、プライバシーポリシーを読んでいないと回答した者は約51%。

(2)テスト結果

- ・テストの平均正答率は67%。また、リスク分野別にみると、ILAS の中分類で「不適正取引」(55%)と「セキュリティリスク」(59%)に関するテスト問題の正答率が他に比べてかなり低い率となった。
- ・被験者が所属する協力校の所在地を人口規模により、特別区等、中核市、その他に区分したところ、人口が多い地域に所属する協力校の被験者の正答率が相対的に高かった。

(3)クロス集計結果

- ・インターネット上の危険に関して何らかの学習の経験があるかどうかをアンケートで聞いたところ、学習経験がある青少年のリテラシーが相対的に高い。
- ・最もよく利用する機器別で比較したところ、PC をよく利用する青少年のリテラシーが相対的に高い。
- ・家庭でインターネット上のリスクについて話し合いをしている青少年のリテラシーが、話し合いをしていない青少年より相対的に若干高い。
- ・安心・安全サービス機能に対する認知をしている青少年の方が、非認知の青少年に比較し、テストの正答率が高かった。特にフィルタリング機能の利用者は、非利用者よりもテストの正答率が高く、相対的にリテラシーが高いと言える。
- ・インターネット上で何らかのトラブルに遭遇したと回答した青少年の正答率を、トラブルと遭遇していないと回答した青少年の正答率と比較すると、相対的に高かった。

4 今後に向けて

本調査のアンケートによって、スマートフォンという高機能の携帯端末が青少年に急速に普及していることが判明した。

スマートフォンは従来の携帯電話と比較して、様々な機能を搭載しており便利である反面、従来はそこまで留意する必要のなかったウィルス感染、プライバシー流出等の様々なリスクも秘めている。

このような状況に鑑みれば、プライバシー対策、セキュリティ対策について青少年の意識を高めることは急務であろう。

特に、都市部に居住する青少年の方が郊外に居住する青少年よりも相対的にリテラシーが高いという結果が出ていることからすれば、今後の地域間格差の解消は大きな課題である。今回判明した相対的な差については、今後も詳細なアンケート等によって原因を分析していく必要があるが、一つには、都市部と地域部における情報量の差が大きく影響しているのではないかと考えられ、インターネットの安全利用に関する都市部での情報を地域においても適切に共有できるような仕組みづくりが期

待される。さらに、インターネット上のリスクについて学習経験のある青少年の方が、学習経験のない青少年に比較して相対的にリテラシーが高いという結果が出たことからしても、今後、地域における普及啓発活動は重要である。

また、今回の調査でネット上のトラブル経験者(トラブルの大半は迷惑メール受信等)のリテラシーが相対的に高いことが判明した。このような結果からすれば、危険であるからインターネットを利用させないという姿勢ではなく、小さなトラブル経験で大きなトラブルを回避するという姿勢で、保護者の見守りのもと、青少年がインターネットを活用していくことがリテラシーの向上に効果的であると推測される。さらに家庭でインターネット上のリスクについて話し合いをしている青少年のリテラシーが、話し合いをしていない青少年よりいずれの分野においても相対的に若干高いことが判明した。これらの結果からすれば、今後保護者の啓発も重要となるであろう。

今後も、テストの実施時期や学校種によるレベルの違いなどを考慮に入れ、本件取組を継続的に行い、その結果を生徒、保護者および学校関係者にフィードバックするとともに、得られたデータを分析・評価することにより、政府自治体における政策や民間による取組に反映させて行くことが重要と思われる。

以 上

目次

1. 背 景	…	1
2. 目 的	…	1
3. 作業体制とスケジュール	…	1
3. 1 作業体制		
3. 2 スケジュール		
4. 調査内容	…	2
4. 1 テスト問題の改善	…	2
4. 2 アンケートの検討	…	2
4. 3 調査の実施	…	3
4. 3. 1 CBTによるテストの実施		
4. 3. 2 協力校の概要		
4. 4 調査結果の集計	…	6
4. 4. 1 テスト結果集計の流れ		
4. 4. 2 調査データの回収状況		
5. 結果分析	…	8
5. 1 テスト結果の分析	…	8
5. 1. 1 基礎統計量		
5. 1. 2 総得点の分布		
5. 1. 3 男子と女子の成績比較		
5. 1. 4 リスク分類毎の正答率		
5. 2 アンケート結果の分析	…	12
5. 2. 1 スマートフォンの急激な普及		
5. 2. 2 スマートフォンに関する理解		
5. 2. 3 安心安全サービスに関する認知と利用		
5. 2. 4 事業者の取組に関する理解		
5. 2. 5 アプリケーションに関する理解		
5. 2. 6 家庭での話し合い		
5. 2. 7 本テストに対する意識		
5. 3 テストとアンケートのクロス集計	…	20
ー被験者の属性等による分析ー		
5. 3. 1 利用機器（携帯電話やスマートフォン）との関係		
5. 3. 2 安心・安全サービスの認知や利用の有無との関係		
5. 3. 3 商品の購入経験の有無との関係		
5. 3. 4 情報公開に関する意識との関係		
5. 3. 5 家族での話し合いの有無との関係		
5. 3. 6 協力校の所在地との関係		
5. 3. 7 トラブル遭遇の有無との関係		
5. 3. 8 学習経験の有無との関係		

6. 参考	…	2 8
6. 1 主軸法による分析	…	2 8
6. 2 テスト解答時間分布	…	2 9
6. 3 改善したテスト問題に対する評価	…	2 9
7. 今後に向けて	…	3 0
添付 1 事前アンケート用紙	…	3 1
添付 2 事後アンケート用紙	…	3 3

1. 背景

従来青少年のためのインターネット環境整備に向けては、様々な活動が行われてきており、その中でも携帯電話のフィルタリング等による、青少年が青少年有害情報を閲覧する機会をできるだけ少なくするための措置については、フィルタリング普及率等を指標として、活発な運動が推進されてきた。

一方で、青少年のリテラシーを向上させる活動については、適切な指標がなく、政府、事業者、学校関係者等による個々の取組はあるものの、その効果については明確でなかった。今後、青少年のリテラシー向上施策を効果的に進めていくためには、インターネット・リテラシー向上の取組の効果及び各青少年のインターネット・リテラシーの適切な評価をなしうる指標開発が不可欠である。

このような状況に鑑み、総務省情報通信政策研究所では平成23年度に「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する調査研究」（以下、昨年度調査研究という。）を実施し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS：Internet Literacy Assessment indicator for Students）を取りまとめたところである。

2. 目的

本調査においては、青少年のインターネット・リテラシーを計測するためのテスト及び当該リテラシーに関係すると思われる項目についてのアンケートを国内の高校等1年生（15歳相当）に実施し、結果データを集計して実態を分析・評価するとともにILASの整備に資することを目的とした。

3. 作業体制とスケジュール

3.1 作業体制

本調査は、情報通信政策研究所／総務省消費者行政課の下、次の体制で実施した。分析・評価グループのメンバーは図表3-01の方々をお願いした。

- ・テスト実施グループ：調査を実施しデータを集計する。
- ・分析・評価グループ：テスト結果の分析・評価をする。

図表3-01 分析・評価グループ委員一覧(敬称略)

委員	赤堀侃司	白鷗大学 教育学部長 教授
委員	新井健一	ベネッセ教育研究開発センター長
委員	石戸奈々子	CANVAS 副理事長
委員	齋藤長行	青山学院大学 客員研究員
委員	藤川大祐	千葉大学 教授
委員	三輪清隆	帝京高等学校 教諭
委員	張一平※	華南師範大学

※張委員については中国在住のためメールベースで参加いただいた。

3.2 スケジュール

本調査は図表3-02に示すスケジュールで実施し、各工程では次の作業を実施した。

- ・テスト問題準備 : 平成23年度に開発したテスト問題を一部修正
- ・アンケートの作成

- ー事前アンケート : 被験者像を明らかにできる項目を中心にC B T方式で作成
- ー事後アンケート : 今後の施策展開に資する項目を中心に紙筆式で作成
- ・テストの実施
 - ー協力校の選定 : 国内の高等学校を地域に偏りなく選定し、協力を依頼
 - ー実施準備 : 協力校への説明、ネットワーク環境の確認、被験者人数の確定、紙筆式テスト用のテスト問題の送付
 - ー実施 : C B T方式にて全国23校で実施
 - ーデータ集計 : アンケートを含むテスト結果のデータ集計
- ・分析・評価 : I L A S 全体及びI L A S に規定された各能力別の分析・評価及びテストの各問題の妥当性等の検証

図表3-02 作業スケジュール

作業項目概要	平成24年						
		5月	6月	7月	8月	9月	
評価・分析ワーキンググループ					①6 ②23		
1 テスト問題準備		==>					
2 アンケートの作成		==>					
・事前アンケート		->					
・事後アンケート		->					
3 テストの実施		===	=====	==>			
・協力校の選定		---	-----	-->			
・実施準備		-	-----	->			
・実施			-----	--->			
・データ集計				--	---->		
4 分析・評価					==>		

4. 調査内容

4.1 テスト問題の改善

昨年度調査研究にて実施されたプレテストの結果、このテスト問題の一部に、問題の難易度の調整が必要なものなど、改善した方がよい問題があることがわかった。そこで、本調査で使うテストについては、問題数は49問で変えないが、これらの問題を修正してから実施することにした。

4.2 アンケートの検討

昨年度調査研究においても、テストに併せてアンケートを実施したが、簡易な内容であったため、被験者の大まかな属性しか捉えることができなかった。そこで本年度はより詳細なアンケートを作成した。(添付1及び2を参照)

事前アンケートは、テスト前にC B T方式で実施し、インターネットの接続機器や利用時間など、インターネット利用環境を明らかにする13問とした。

事後アンケートは、テスト後に紙筆式で実施し、テストの難易度等について問うと共に、青少年に急速に普及しているスマートフォンに関する質問を多く盛り込んだ24問とした。

4. 3 調査の実施

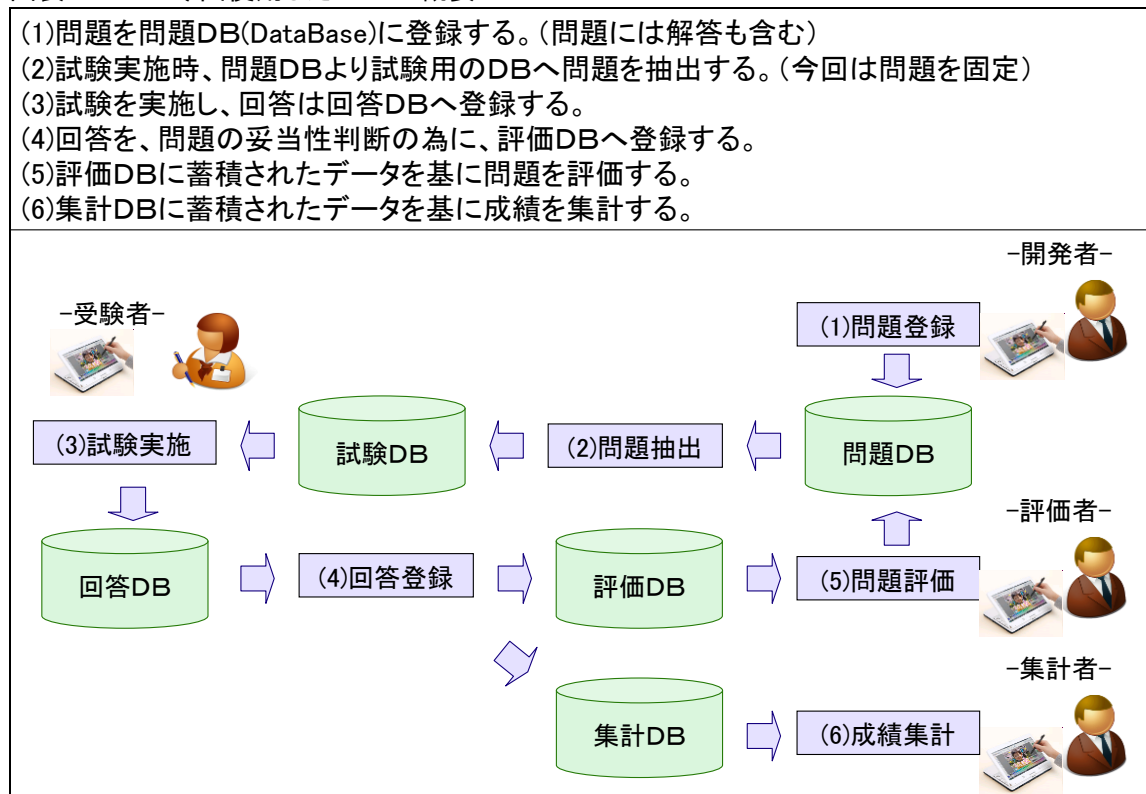
4. 3. 1 CBTによるテストの実施

C B T (Computer Based Testing) 方式によるテスト実施を円滑に進めるため、一般財団法人コンピュータ教育推進センター（以降略称C E C）配下に図表 4－0 1 のとおりテスト実施グループを設置し、全てC B Tで実施することができた。使用したC B Tの概要は図表 4－0 2 に示すとおり、昨年度のプレテストと同じ方式を使用した。

図表4－01 テスト実施グループ(敬称略)

責任者	村松祐子	富士通株式会社 マネージャ
副責任者	大島恵美子	富士通エフ・オー・エム株式会社 担当課長
営業	弘淳	富士通エフ・オー・エム株式会社
運用・管理	高橋直文	同上
コンテンツ作成	林義樹 中島真樹 境野壮登	同上
学校立会い	鶴田雅文、藤本康雄、赤松伊佐代	一般財団法人コンピュータ教育推進センター
データの集計	藤本康雄	同上

図表4－02 今回使用したCBTの概要



4. 3. 2 協力校の概要

C B T方式で実施するため、図表4－03の動作環境を満たす学校を探し、総務省の各地方総合通信局等を通じてなど、23校を確保した。協力校には主に次のことをお願いした。

- ・C B T用サーバとの接続確認、データ送受信確認
- ・被験者人数の確定
- ・事後アンケート用紙の配布・回収
- ・テスト実施日時の確定

図表4－03 CBTの動作環境

□CBT (ComputerBasedTesting) の動作環境 ー学校のパソコン教室を40名程度で利用することを想定していますー				
■今回のプレテストは、Windowsパソコンで、ブラウザ (Internet Explorer) を使用し、A社のクラウドセンターへ、インターネット経由で接続して実施する為、必要な動作環境は以下の通りです。生徒毎にユーザIDとパスワードを付与します。また、事前に動作確認を実施致します。				
ハードウェア	ソフトウェア	対外ネット	IEの設定	その他
・1024x768ピクセル以上の解像度のディスプレイを持つAT互換機	・Windows 2000/XP IE6.0SP1/SP2,IE7.0 及び ・Java2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2	・10Mbps以上が好ましい	・Cookie:受け入れる ・ActiveXコントロール:有効 ・アクティブスクリプト:有効 ・暗号化されていないデータの送信:有効	・ファイアーウォールで今回使用するサーバをアクセス禁止にしないこと https://el.fom.co.jp/inavi/service

The diagram illustrates the CBT system architecture. On the left, a school (学校) is represented by a large orange shape. Inside the school, a teacher (教員) and students (生徒) are shown. The teacher is using a guidance terminal (指導端末) and the students are using a PC (1 person 1 PC). The school is connected via the Internet (インターネット) to a Cloud Center (クラウドセンター). The Cloud Center contains a test question database (テスト問題).

図表4－04 協力校一覧

地域区分	所在地区分 ¹	設立区分	学校名	協力人数
北海道	中核市	国立	旭川工業高等専門学校	175
東北	その他	宮城県立	亘理高等学校	96
	その他	宮城県立	柴田高等学校	40
関東	その他	茨城県立	並木中等教育学校	39
	その他	栃木県立	足利南高等学校	193
	中核市	千葉県立	柏の葉高等学校	36
	特別区等	私立	帝京高等学校	90
	その他	東京都立	東大和高等学校	78
北陸	中核市	富山県立	水橋高等学校	121
	中核市	私立	金沢工業高等専門学校	131
信越	その他	長野県立	坂城高等学校	135
	その他	私立	帝京長岡高等学校	206
東海	中核市	愛知県立	衣台高等学校	77
	その他	私立	中部大学第一高等学校	72
	その他	三重県立	津工業高等学校	40
近畿	その他	私立	羽衣学園高等学校	163
	中核市	大阪府立	槻の木高等学校	39
	中核市	奈良県立	奈良朱雀高等学校	36
中国	特別区等	広島県立	祇園北高等学校	146
四国	中核市	愛媛県立	松山東高等学校	159
九州	特別区等	私立	熊本学園大学付属高等学校	197
沖縄	その他	国立	沖縄工業高等専門学校	86
	その他	沖縄県立	美里工業高等学校	80
計 11 地域	特別区等 3 校 中核市 8 校 その他 12 校	国公立 17 校 私立 6 校 計 23 校		男 1,423 人 女 988 人 不明 53 人 計 2,464 人

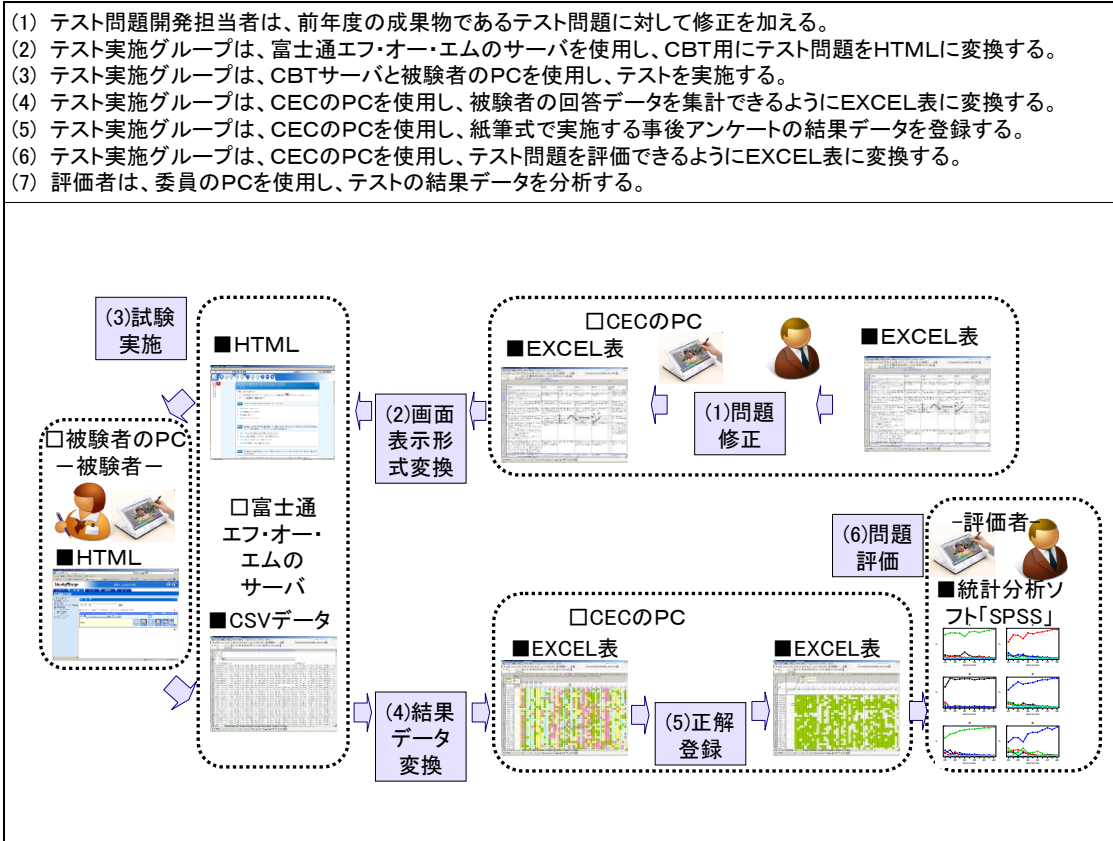
¹地方自治法では地方公共団体を、指定都市：人口50万以上 中核市：人口30万以上 特例市：人口20万以上 その他の市：人口5万以上 町村：町村 特別区：東京23区に区分けしているが、本調査では、指定都市と特別区を合わせて特別区等、中核市、特例市とその他の市及び町村を合わせてその他と区分けする。

4. 4 調査結果の集計

4. 4. 1 テスト結果集計の流れ

今回のテスト結果の集計は次の流れで行った。データ形式はCSV及びEXCEL表形式である。解析には統計分析ソフト「SPSS」を用いた。

図表4-05 テスト結果集計の流れ



4. 4. 2 調査データの回収状況

被験者は2, 973人を予定して実施したが、当日の学校行事や病気による欠席者等があり最終的には2, 464人となった。また、被験者総数に対するアンケートの回収率については、事前アンケートはC B T上の操作ミス等により若干、事後アンケートは紙筆式のため10%ほど回収率が悪かった。

- ・被験者総数 2, 464人
- ・事前アンケート 2, 421人（回収率 98%）
- ・事後アンケート 2, 247人（回収率 91%）

なお、アンケートにより判明した携帯電話やスマートフォンの保有者数は、アンケートの回収率の差等の要因により、事前アンケートと事後アンケートで異なっている。

図表4-06 調査データの回収状況

予定した被験者数	2, 958人	
テスト受験者数	2, 464人	欠席者等 494人

事前アンケート回答者数 2, 421人	未回収 43人
（内数：携帯電話等保有者数 2, 221人）	
（内数：スマートフォン保有者数 1, 428人）	

事後アンケート回答者数 2, 247人	未回収 217人
（内数：携帯電話等保有者数 2, 124人）	
（内数：スマートフォン保有者数 1, 370人）	

5. 結果分析

5. 1 テスト結果の分析

5. 1. 1 基礎統計量

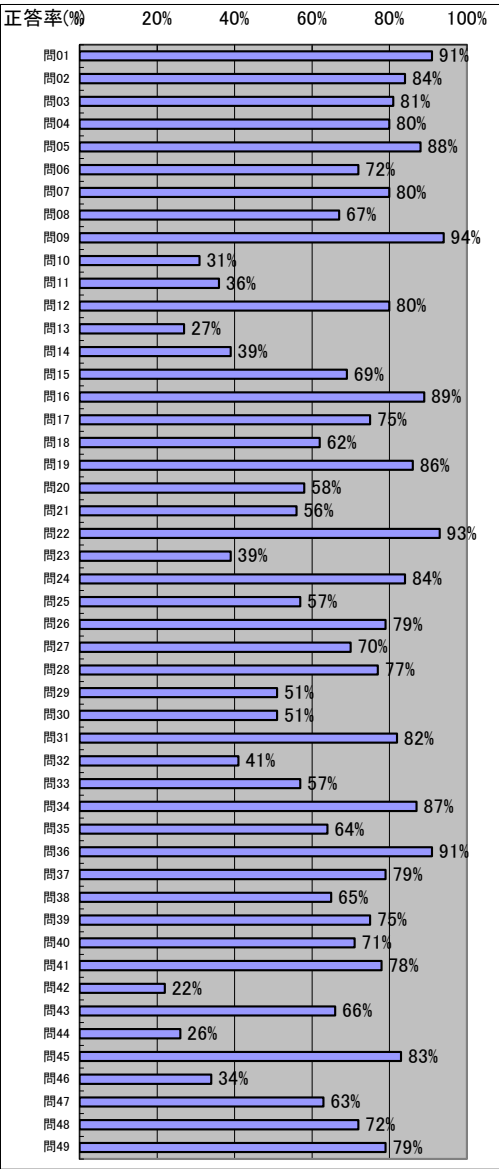
集計データから基礎統計量を求めたところ、図表5－01の結果を得た。全体の傾向をまとめると次のとおり。()内は平成23年度実施のプレテストで求めた値であるが、問題を改善したり、協力校や実施時期が異なること等により単純には比較はできない。

	－ 平成24年度 －	－ 平成23年度 －
・被験者全員の平均正答率	: 67%	(73%)
・テスト問題全体の信頼性係数	: 0.89	(0.86)
・問題毎の正答率	: 22%～94%	(26%～96%)

図表5－01 テストの基礎統計量

* 欠測 : 当該問題で選択肢を選択しなかった被験者の割合
選択肢1～4: 当該問題で選択肢の1～4を選択した被験者の割合

問題番号	欠測	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	正答率	信頼性
問01	0	5	4	91	0	91%	0.89
問02	0	3	84	4	8	84%	0.89
問03	1	81	6	1	11	81%	0.89
問04	1	6	7	5	80	80%	0.89
問05	1	4	3	88	4	88%	0.89
問06	1	6	10	11	72	72%	0.89
問07	1	80	7	3	8	80%	0.89
問08	1	3	3	67	25	67%	0.89
問09	0	3	1	94	1	94%	0.89
問10	1	31	17	27	24	31%	0.89
問11	3	27	17	18	36	36%	0.89
問12	1	5	5	9	80	80%	0.89
問13	2	32	18	21	27	27%	0.89
問14	2	17	17	39	25	39%	0.89
問15	1	6	69	11	13	69%	0.89
問16	1	6	2	89	2	89%	0.89
問17	1	4	75	6	14	75%	0.89
問18	2	62	5	21	10	62%	0.89
問19	1	7	3	2	86	86%	0.89
問20	1	58	12	8	21	58%	0.88
問21	2	56	23	14	5	56%	0.89
問22	1	2	3	1	93	93%	0.89
問23	2	25	13	39	20	39%	0.89
問24	1	2	7	84	5	84%	0.89
問25	1	57	22	17	3	57%	0.89
問26	1	7	6	7	79	79%	0.88
問27	1	8	70	4	18	70%	0.89
問28	2	6	9	77	6	77%	0.88
問29	2	13	25	51	9	51%	0.89
問30	2	51	17	12	19	51%	0.89
問31	1	82	10	5	2	82%	0.88
問32	3	19	19	41	17	41%	0.89
問33	2	57	21	14	6	57%	0.89
問34	2	3	3	5	87	87%	0.88
問35	3	9	8	64	16	64%	0.89
問36	1	2	91	4	2	91%	0.89
問37	2	9	79	5	6	79%	0.89
問38	3	65	4	10	18	65%	0.88
問39	1	4	2	16	75	75%	0.89
問40	2	10	3	71	14	71%	0.89
問41	1	16	4	78	1	78%	0.88
問42	3	22	10	41	25	22%	0.89
問43	2	4	25	4	66	66%	0.89
問44	3	26	31	20	20	26%	0.89
問45	2	5	83	7	3	83%	0.88
問46	2	34	43	12	9	34%	0.89
問47	4	7	14	13	63	63%	0.89
問48	2	10	13	3	72	72%	0.89
問49	2	5	6	8	79	79%	0.88

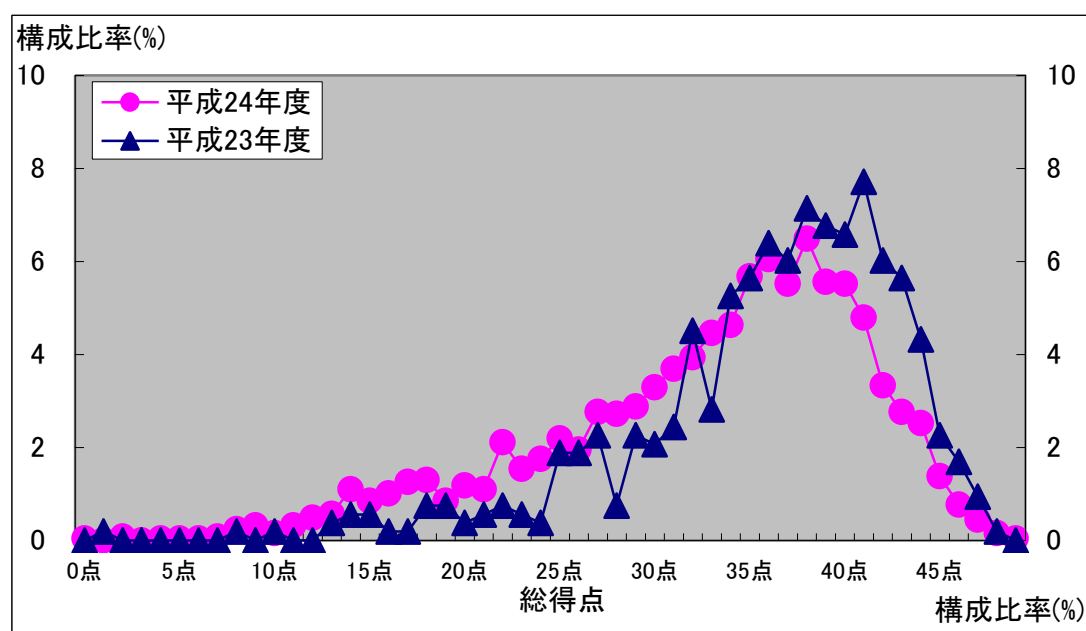


5. 1. 2 総得点の分布図

被験者全体の総得点分布を図表5－02に示すが、昨年度（プレテスト）の結果と比較できるように構成比率に換算した数値を用いた。

昨年度は38点～41点あたりをピークに、急激に分布が減少し25点以下は殆ど分布していなかった。これに比べ、今年度は36点～38点あたりをピークに低得点に向けてなだらかに分布している。このことから、総得点の分布の集中が少し改善できたと言える。

図表5－02 被験者全体の総得点分布

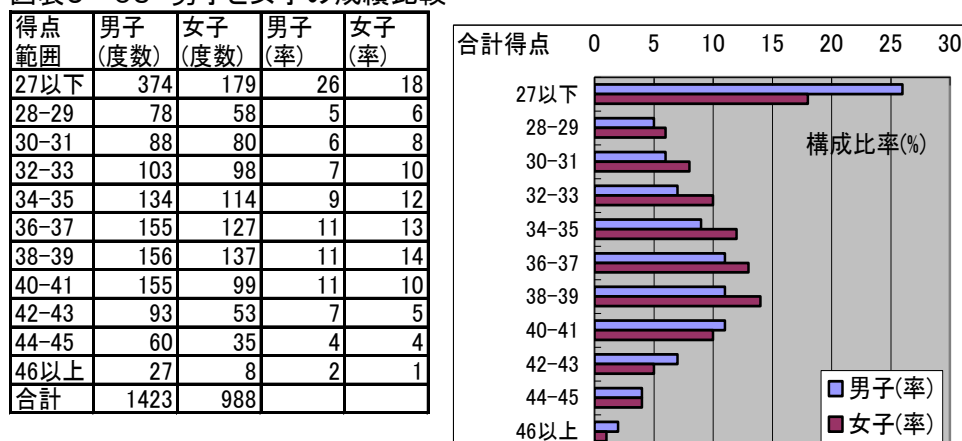


5. 1. 3 男子と女子の成績比較(n=2, 411)

2, 464件の内、性別不明の53件を除いた、男子1, 423件と女子988件の成績を比較したところ、図表5－03に示すとおり、男女間に大きな差はみられないが、若干女子の点数が高かった。()内は百点満点換算。

・男子：32.5点 (66.3点) 女子：33.6点 (68.6点) 全体：32.8点 (66.9点)

図表5－03 男子と女子の成績比較

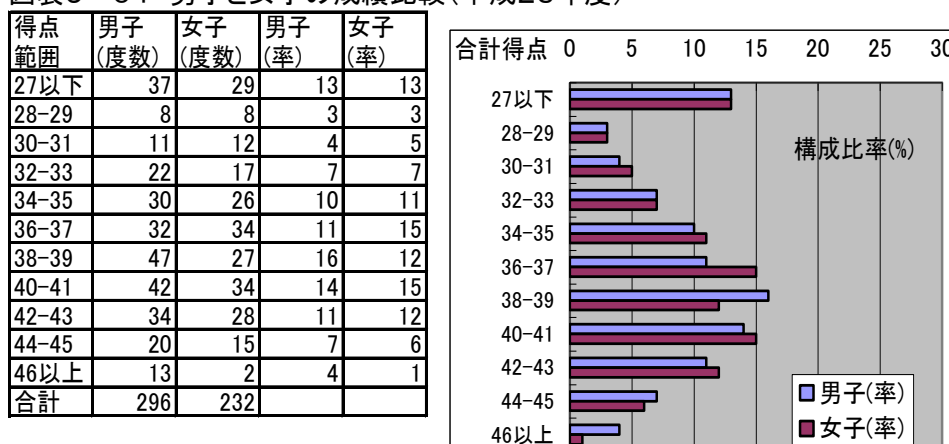


<参考 平成23年度の結果>

昨年度のプレテストの成績を図表5-04に示すが、男子の方が若干高かった。

・男子：36.3点（74.1点） 女子：35.7点（72.9点） 全体：36.0点（73.5点）

図表5-04 男子と女子の成績比較（平成23年度）



5. 1. 4 リスク分類毎の正答率

本調査におけるリスク分類は、昨年度調査研究で定めたリスク分類（図表5-05）を用いた。

図表5-05 本調査におけるリスク分類

大分類	中分類	小分類
1 違法・有害情報リスク	a 違法情報リスク	1 著作権等、肖像権、犯行予告、出会い系サイト、等
	b 有害情報リスク	1 公序良俗に反するような情報、成人向け情報等
2 不適正利用リスク	a 不適切接触リスク	1 誹謗中傷
		2 匿名 SNS
		3 実名 SNS
		4 迷惑メール
		5 アプリケーション(*)
	b 不適正取引リスク	1 詐欺、不適正製品等の販売等
3 プライバシー・セキュリティリスク	c 不適切利用リスク	1 過大消費
		2 依存
	a プライバシーリスク	1 プライバシー・個人情報の流出、不適切公開
	b セキュリティリスク	1 不正アクセス等のなりすまし
		2 ウィルス

(*) スマートフォンのアプリケーション²について

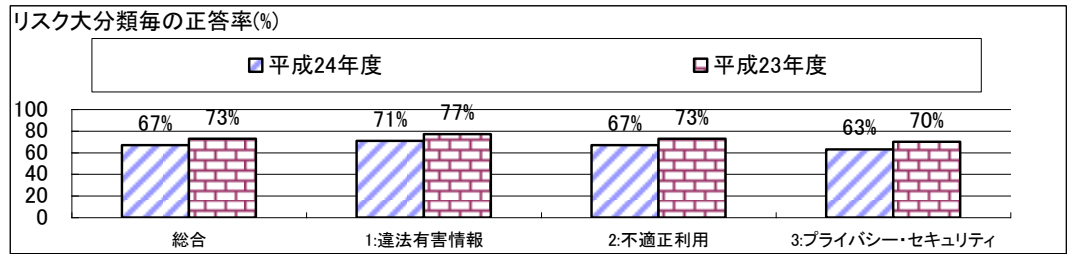
(1) リスク大分類毎の正答率

リスク大分類毎の正答率は、図表5-06に示すとおり、相対的な高低は昨年度と同様の結果となり、違法有害情報に関する問題の正答率が相対的に一番高かった。

²スマートフォンは使い方によってはパソコン同等であり、関連するリスクは1a～3bまで全てであるが、時事的にスマートフォンアプリケーションの不適切さが話題になっているため、2aの不適切接触の中に独立して項番を設けた。

図表5－06 リスク大分類毎の正答率

	平成24年度	平成23年度			
人数	2,464人	532人			
総合	67%	73%			
1:違法有害情報	71%	77%			
2:不適正利用	67%	73%			
3:プライバシー・セキュリティ	63%	70%			



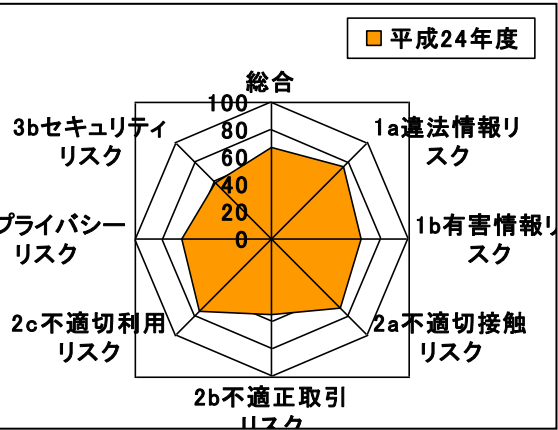
(2) リスク中分類毎の正答率

リスク中分類毎の正答率は、図表5－07～09に示すとおり、昨年度と同様に2b「不適正取引リスク」と3b「セキュリティリスク」が他のリスク中分類に比較してかなり低くなった。

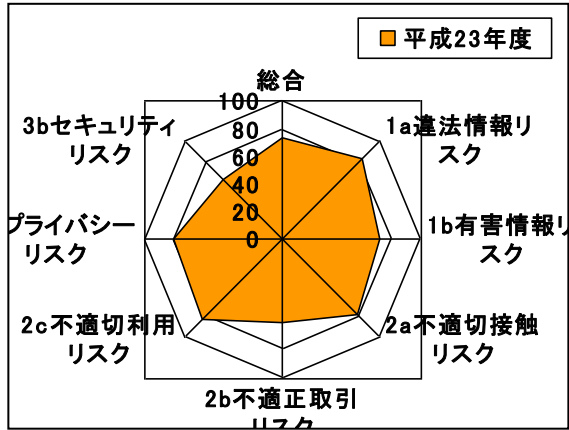
図表5－07 リスク中分類毎の正答率の比較

	平成24年度	平成23年度		
人数	2,464人	532人		
総合	67%	73%		
1a:違法情報リスク	75%	83%		
1b:有害情報リスク	66%	71%		
2a:不適切接触リスク	72%	77%		
2b:不適正取引リスク	55%	61%		
2c:不適切利用リスク	75%	82%		
3a:プライバシーリスク	66%	79%		
3b:セキュリティリスク	59%	61%		

図表5－08 リスク中分類毎の正答率



図表5－09 リスク中分類毎の正答率
＜参考 平成23年度のプレテストの結果＞



5. 2 アンケート結果の分析

次項以降の分析において、アンケートの対象者数を $n = 9,999$ と表示する。また、アンケートの質問毎に無回答者がおり、選択肢毎の比較に不要な場合には無回答者を省いて表示している。

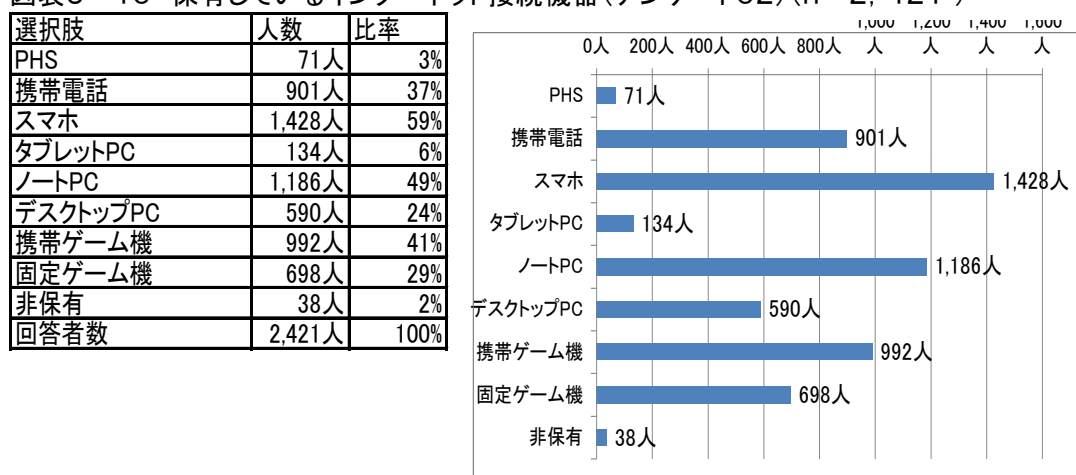
先行するアンケートの回答をふまえ、掘り下げるためにさらにアンケートを実施している場合には、対象者の条件（アンケート 99 において X X と回答した 999 人の内訳）及び対象者数（ $n = 9,999$ ）を明示している。

5. 2. 1 スマートフォンの急激な普及

(1) 機器の保有状況

アンケート 02 において、保有している機器の中でインターネットを利用する際に使用する機器を複数回答でたずねたところ、最も多い回答がスマートフォンで 59% と、昨年度調査研究（平成 24 年 2 月に実施、25%）と比較し約 2 倍に急激に増加している。

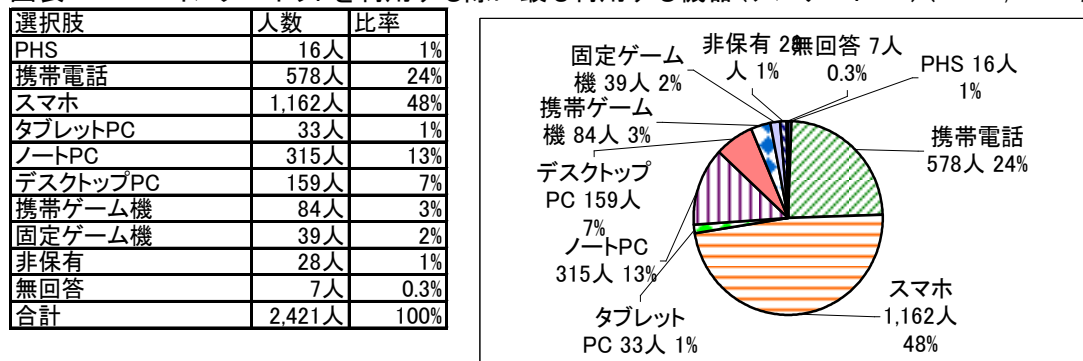
図表 5-10 保有しているインターネット接続機器（アンケート 02）（ $n = 2,421^3$ ）



(2) 最頻利用機器

アンケート 03 において、インターネットを利用する際に最もよく利用する機器をたずねたところ、図表 5-11 に示すとおり、最も多い回答がスマートフォンで約半数（48%）を占めた。

図表 5-11 インターネットを利用する際に最も利用する機器（アンケート 03）（ $n = 2,421$ ）



³ アンケート回答者数：アンケートを実施する際の対象者数であり、 $n = 999$ と表記する。この例では対象者は2,421人である。

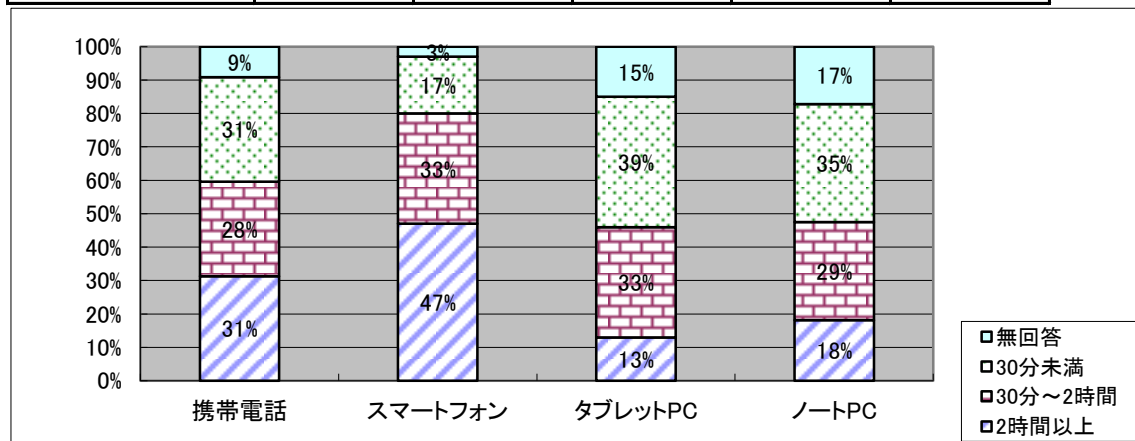
(3) 保有している機器別の一日の使用時間(アンケート04)

アンケート04において保有している機器別の使用時間をたずねたところ、図表5-12に示すとおり、スマートフォン利用者の約半数(47%)が1日に2時間以上も使用していることがわかった。

図表5-12 1日の使用時間(アンケート04)

* アンケート02で主な機器(携帯/スマホ/タブレットPC/ノートPC)を保有していると回答した者を対象

	2時間以上	30分～2時	30分未満	無回答	保有者数
携帯電話	282人	256人	283人	80人	901人
スマートフォン	671人	475人	240人	42人	1,428人
タブレットPC	18人	44人	52人	20人	134人
ノートPC	217人	349人	417人	203人	1,186人



5. 2. 2 スマートフォンに関する理解

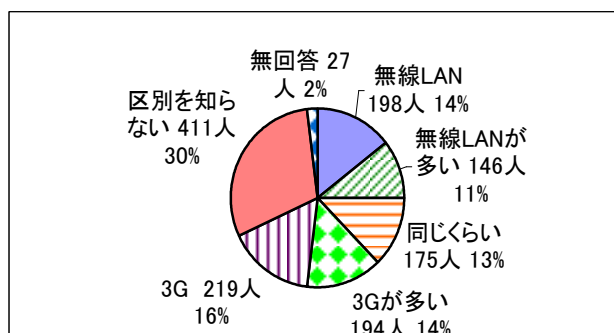
(1) 無線LANと3G回線

スマートフォンの普及は進む一方で、スマートフォンに関する理解は必ずしも十分でない。スマートフォン保有者に対するアンケート26において、図表5－13に示すとおり、スマートフォンの特徴の一つである無線LAN接続について、「3G接続との区別が分からない」と回答した被験者がスマートフォン保有者の3割も存在している。

図表5－13 無線LANと3G回線のどちらを多く利用しているか(アンケート26)(n=1,370)

* 事後アンケートでスマートフォンを保有していると回答した1,370人の内訳

選択肢	人数	比率
無線LAN	198人	14%
無線LANが多い	146人	11%
同じくらい	175人	13%
3Gが多い	194人	14%
3G	219人	16%
区別を知らない	411人	30%
無回答	27人	2%
合計	1,370人	100%



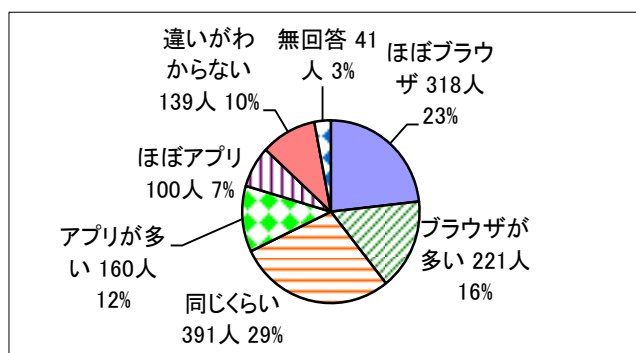
(2) ブラウザとアプリ

スマートフォンのアプリケーションとブラウザの利用状況についてたずねたところ、ブラウザとの「違いが分からない」と回答した者が1割存在するものの、ブラウザをよく利用する者(「ほぼブラウザ」又は「ブラウザが多い」と回答した者)が約4割を占め、スマートフォンの特徴であるアプリケーションは、まだよくは利用されていないことがわかった。

図表5－14 インターネットに接続する際、ブラウザとアプリのどちらをよく利用するか(アンケート29)(n=1,370)

* 事後アンケートでスマートフォンを保有していると回答した1,370人の内訳

選択肢	人数	比率
ほぼブラウザ	318人	23%
ブラウザが多い	221人	16%
同じくらい	391人	29%
アプリが多い	160人	12%
ほぼアプリ	100人	7%
違いがわからない	139人	10%
無回答	41人	3%
合計	1,370人	100%



5. 2. 3 安心・安全サービスに関する認知と利用

スマートフォンの青少年利用の普及に伴い、従来のフィルタリングに加え、無線LAN対策、アプリケーション対策等、安心・安全利用のためのサービスや機能も多種提供されているが、これらのサービス・機能に対する認知状況と利用状況を調べてみた。

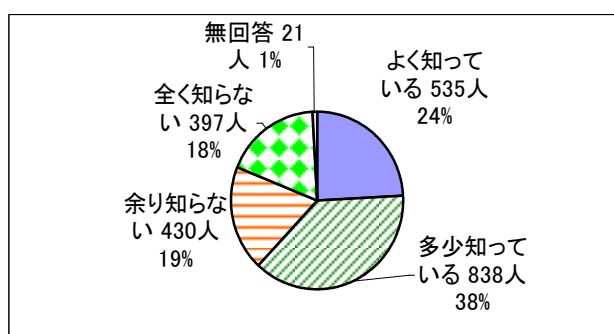
(1) 認知状況

PHS／携帯電話／スマートフォン保有者に対してアンケート06において、各種のサービスや機能について知っているかを調査した。例として、フィルタリングサービスに関してたずねたところ、図表5－15に示すとおり、認知している人（「よく知っている」又は「多少知っている」と答えた人の合計）の割合は約6割を占めている。

図表5－15 フィルタリングサービスを知っていますか（従来のPHS・携帯電話・スマートフォンに関連するサービス・機能）（アンケート06）（n＝2, 221）

* アンケート02でPHS、携帯電話、スマートフォンのいずれかを保有していると回答した2, 221人の内訳

選択肢	人数	比率
よく知っている	535人	24%
多少知っている	838人	38%
余り知らない	430人	19%
全く知らない	397人	18%
無回答	21人	1%
合計	2,221人	100%



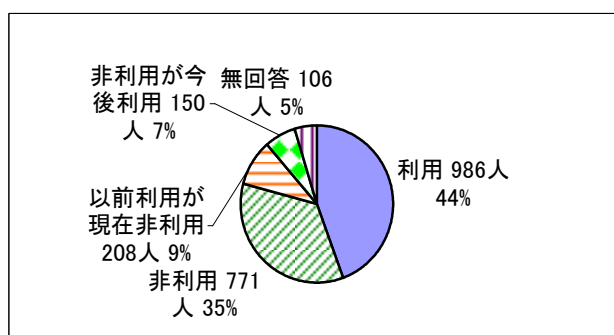
(2) 利用状況

一方で、図表5－15に示すとおり、フィルタリングサービス・機能を利用していると回答した被験者は約4割にとどまり、認知していても利用していない被験者が存在することから、今後、利用していない、又は利用をやめた理由などを探る必要がある。

図表5－16 フィルタリングサービス・機能を利用していますか（従来のPHS・携帯電話・スマートフォンに関連するサービス・機能）（アンケート07）（n＝2, 221）

* アンケート02でPHS、携帯電話、スマートフォンのいずれかを保有していると回答した2, 221人の内訳

選択肢	人数	比率
利用	986人	44%
非利用	771人	35%
以前利用が現在非利用	208人	9%
非利用が今後利用	150人	7%
無回答	106人	5%
合計	2,221人	100%



5. 2. 4 事業者の取組に関する理解

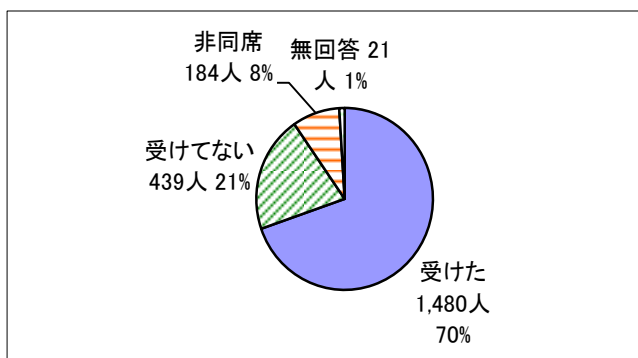
(1) フィルタリングサービスの説明

PHS／携帯電話／スマートフォンのいずれかを保有している被験者に対するアンケート24で、フィルタリングサービスについて販売店からの説明の有無をたずねたところ、図表5－17に示すとおり、受けていないと回答した被験者が約2割もいた。

図表5－17 フィルタリングサービスについて説明を受けたか(アンケート24)(n=2,124)

*事後アンケートでPHS／携帯電話／スマートフォンを保有していると回答した2,124人の内訳

選択肢	人数	比率
受けた	1,480人	70%
受けてない	439人	21%
非同席	184人	9%
無回答	21人	1%
合計	2,124人	100%



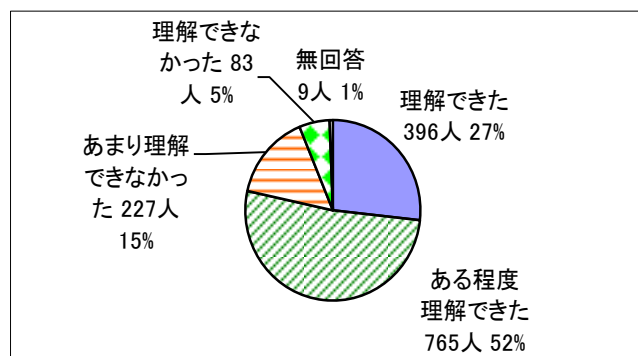
(2) フィルタリングサービスの説明に対する理解

さらに、フィルタリングサービスについて「説明を受けた」と回答した被験者に対し、アンケート25で理解度をたずねたところ、図表5－18に示すとおり、「説明を理解できた」と回答した被験者は約3割にとどまることからすれば、事業者には、青少年にもよく理解できるよう、より分かり易い説明を提供することが期待される。

図表5－18 フィルタリングの説明を理解できたか(アンケート25)(n=1,480)

*アンケート24でフィルタリングの説明を受けたと回答した1,480人の内訳

選択肢	人数	比率
理解できた	396人	27%
ある程度理解できた	765人	52%
あまり理解できなかった	227人	15%
理解できなかった	83人	6%
無回答	9人	1%
合計	1,480人	100%



5. 2. 5 アプリケーションに関する理解

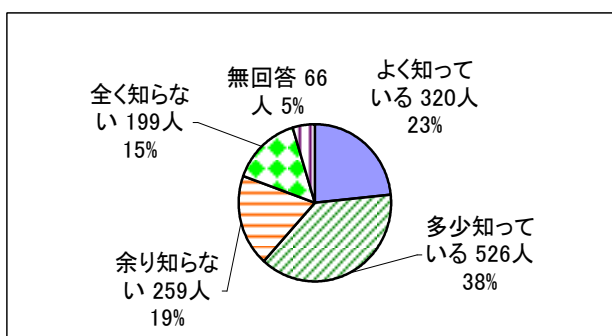
(1) 情報漏洩の危険性について

スマートフォン保有者に対し、アンケート34で、アプリケーションが情報漏洩を行う危険性があることについてたずねたところ、図表5-19に示すとおり、認識している人（「よく知っている」又は「多少知っている」と答えた人）の割合は約6割を占めた。

図表5-19 アプリケーションに情報漏洩の危険性があることを知っているか(アンケート34)(n=1,370)

* 事後アンケートでスマートフォンを保有していると回答した1,370人の内訳

選択肢	人数	比率
よく知っている	320人	23%
多少知っている	526人	38%
余り知らない	259人	19%
全く知らない	199人	15%
無回答	66人	5%
合計	1,370人	100%



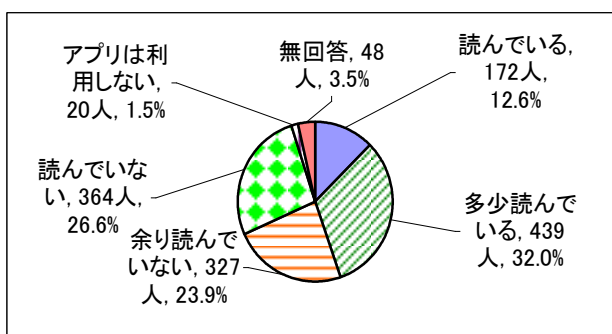
(2) アプリケーションのプライバシーポリシーについて

スマートフォン保有者に対し、アンケート36で、アプリケーションを利用する際にプライバシーポリシー規約を読んでいるかどうかたずねたところ、図表5-20に示すとおり、「余り読んでいない」又は「読んでいない」と回答した者が約半数もいた。

図表5-20 アプリを利用する際にプライバシーポリシー規約を読んでいるか(アンケート36)(n=1,370)

* 事後アンケートでスマートフォンを保有していると回答した1,370人の内訳

選択肢	人数	比率
読んでいる	172人	12.6%
多少読んでいる	439人	32.0%
余り読んでいない	327人	23.9%
読んでいない	364人	26.6%
アプリは利用しない	20人	1.5%
無回答	48人	3.5%
合計	1,370人	100.0%



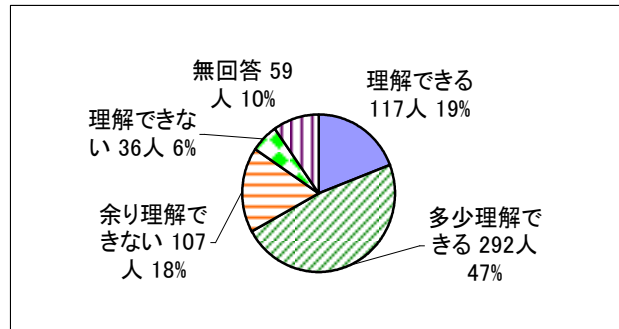
(3) プライバシーポリシーの理解

さらに、プライバシーポリシーを「読んでいる」、又は「多少読んでいる」と答えた人に対し、アンケート37で、プライバシーポリシー規約の理解度をたずねたところ、図表5-21に示すとおり、「余り理解できない」又は「理解できない」と回答した者が約25%もいた。

図表5-21 プライバシーポリシー規約を理解できたか(アンケート37)(n=611)

* アンケート36で「読んでいる」あるいは「多少読んでいる」と回答した611人の内訳

選択肢	人数	比率
理解できる	117人	19%
多少理解できる	292人	48%
余り理解できない	107人	18%
理解できない	36人	6%
無回答	59人	10%
合計	611人	100%

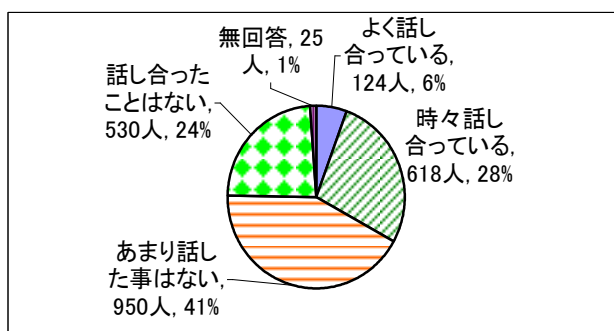


5. 2. 6 家庭での話し合い

アンケート22において、インターネット上の危険について家庭で話し合っているかどうかについても質問したところ、図表5-22に示すとおり、「よく話し合っている」「時々話し合っている」と回答した者の総計は約3割にとどまった。

図表5-22 危険について家庭で話し合っているか(アンケート22)(n=2,247)

選択肢	人数	比率
よく話し合っている	124人	6%
時々話し合っている	618人	28%
あまり話した事はない	950人	42%
話し合ったことはない	530人	23%
無回答	25人	1%
合計	2,247人	100%

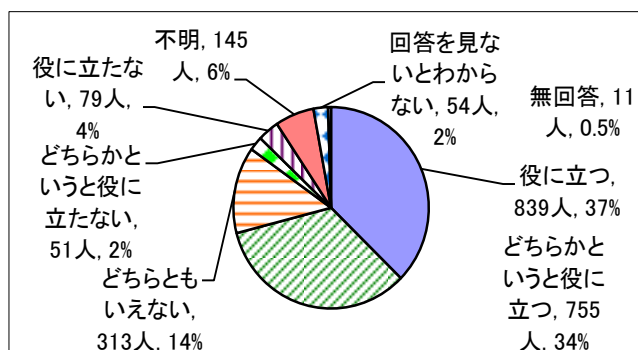


5. 2. 7 本テストに対する意識

アンケート19において、今回のテストがインターネットを安心安全に利用するために「役立つと思うか」についてたずねたところ、図表5-23に示すとおり、約7割の者が役に立つ（「役に立つ」、「どちらかという役に立つ」と回答した生徒の合計）と回答した。

図表5-23 テストは役立つと思うか。(アンケート19)(n=2,247)

選択肢	人数	比率
役に立つ	839人	37%
どちらかという役に立つ	755人	34%
どちらともいえない	313人	14%
どちらかという役に立たない	51人	2%
役に立たない	79人	4%
不明	145人	6%
回答を見ないとわからない	54人	2%
無回答	11人	0.5%
合計	2247人	100%



5. 3 テストとアンケートのクロス集計ー被験者の属性等による分析ー

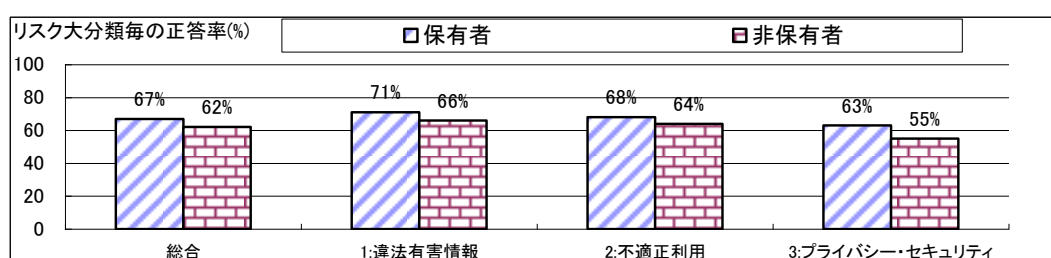
5. 3. 1 利用機器(携帯電話やスマートフォン)との関係

(1) 機器を保有しているか否かでの比較

アンケート03での最頻利用機器の調査において、何かしらの機器を保有している被験者が2,386人、非保有の被験者が28人であった。双方の人数に大きな開きがあることから比較は慎重に行う必要があるが、それぞれの正答率を比べてみると、図表5-24に示すとおり、若干保有者の方が高いということがわかった。

図表5-24 機器保有者と非保有者の比較(アンケート03)(n=2,421)

	保有者	非保有者		
人数	2,386人	28人		
総合	67%	62%		
1:違法有害情報	71%	66%		
2:不適正利用	68%	64%		
3:プライバシー・セキュリティ	63%	55%		



(2) 最頻利用機器による比較

最頻利用機器と正答率の関連を分析するために、回答者を次の4つにグループ分けし、その正答率を比較した。

「PHS/携帯」(PHS、携帯電話)

「スマホ」(スマートフォン)

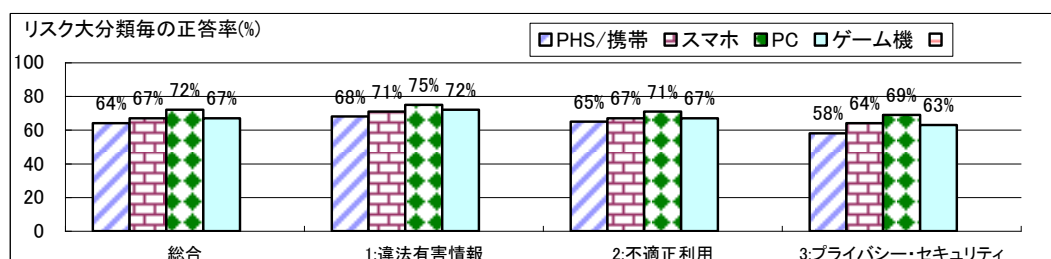
「PC」(タブレットパソコン、ノートパソコン、デスクトップパソコン)

「ゲーム機」(携帯ゲーム機、固定ゲーム機)

図表5-25に示すとおり、PCグループの正答率が一番高かった。特にプライバシー・セキュリティ分野については他の機器利用者と比較して5%以上の差が出ている。PCにおいてはセキュリティソフトの利用が普及しており、セキュリティに関する知識、意識が高いためと推測される。

図表5-25 最頻利用機器による比較(アンケート03)(n=2,386)

	PHS/携帯	スマホ	PC	ゲーム機	
人数	594人	1,162人	507人	123人	
総合	64%	67%	72%	67%	
1:違法有害情報	68%	71%	75%	72%	
2:不適正利用	65%	67%	71%	67%	
3:プライバシー・セキュリティ	58%	64%	69%	63%	



5. 3. 2 安心・安全サービスの認知や利用の有無との関係

(1) フィルタリングサービスの認知の有無との関係

アンケート03での最頻利用機器の調査でPHS／携帯電話／スマートフォンと回答した被験者に対し、アンケート06で、青少年がインターネットを安心して安全に利用するためのサービスについての認知の有無と正答率の関係を調べたところ、図表5-26に示すとおり、安心・安全サービス・機能対策に対する認知をしている被験者（「よく知っている」又は「多少知っている」と回答した者）の方が、非認知（「あまり知らない」又は「全く知らない」と回答した者）の被験者より、テストの正答率が相対的に高いという結果となった。

この結果については、安心安全についての意識が高いものが、インターネット上のリスクに対する知識・対応能力も高いことを示していると考えられる。

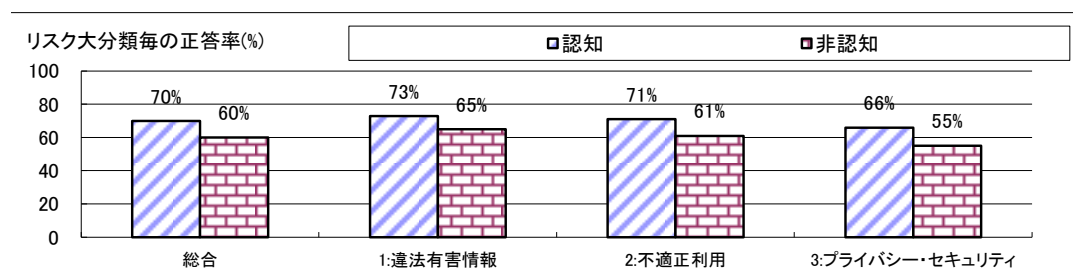
図表5-26 フィルタリングサービスの認知と正答率の比較(アンケート06)(n=1,756)

* アンケート03において、PHS／携帯電話／スマートフォンを最もよく利用すると回答した1,756人の内訳

* 認知:「よく知っている」「多少知っている」の合計

* 非認知:「あまり知らない」「全く知らない」の合計

	認知	非認知			
人数	1,045人	693人			
総合	70%	60%			
1:違法有害情報	73%	65%			
2:不適正利用	71%	61%			
3:プライバシー・セキュリティ	66%	55%			



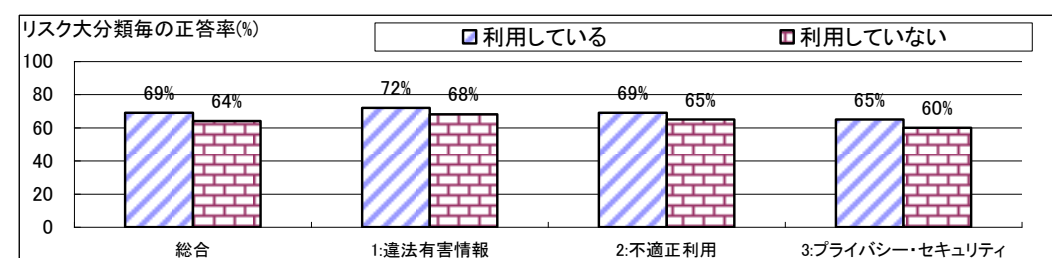
(2) フィルタリングサービスの利用の有無との関係

さらに、前項同様、最頻利用機器の調査でPHS／携帯電話／スマートフォンと回答した被験者に対し、アンケート07で、フィルタリングサービスの利用の有無による正答率を比較したところ、図表5-27に示すとおり、サービスを利用している被験者の正答率が相対的に高かった。

図表5-27 フィルタリングサービスの利用と正答率の比較(アンケート07)(n=1,756)

* アンケート03において、PHS／携帯電話／スマートフォンを最もよく利用すると回答した1,756人の内訳

	利用している	利用していない			
人数	758人	904人			
総合	69%	64%			
1:違法有害情報	72%	68%			
2:不適正利用	69%	65%			
3:プライバシー・セキュリティ	65%	60%			



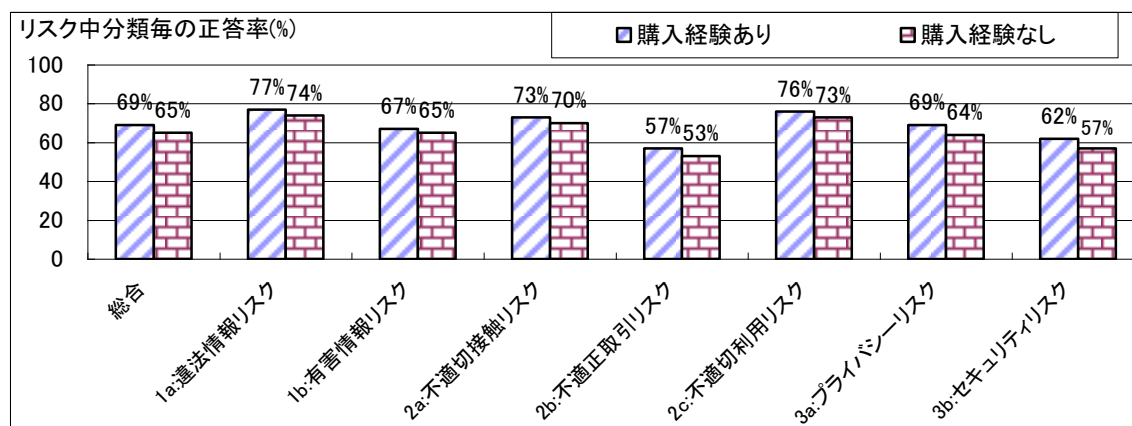
5.3.3 商品の購入経験の有無との関係

中分類毎の正答率（図表5－07）において、一番低い値であった不適正取引については、オンラインショッピングに関する問題を出題しているが、そもそも15才相当の青少年が経験している可能性が少ないのではと考え、アンケート05において有無を調べてみた。

図表5－28に示すとおり、インターネット上で商品の購入経験があると回答した被験者は購入経験が無いと回答した被験者より相対的に正答率が高かった。

図表5－28 商品の購入経験(アンケート05)によるリスク中分類毎の正答率の比較

	購入経験あり	購入経験なし		
人数	1,288人	1,133人		
総合	69%	65%		
1a:違法情報リスク	77%	74%		
1b:有害情報リスク	67%	65%		
2a:不適切接触リスク	73%	70%		
2b:不適正取引リスク	57%	53%		
2c:不適切利用リスク	76%	73%		
3a:プライバシーリスク	69%	64%		
3b:セキュリティリスク	62%	57%		



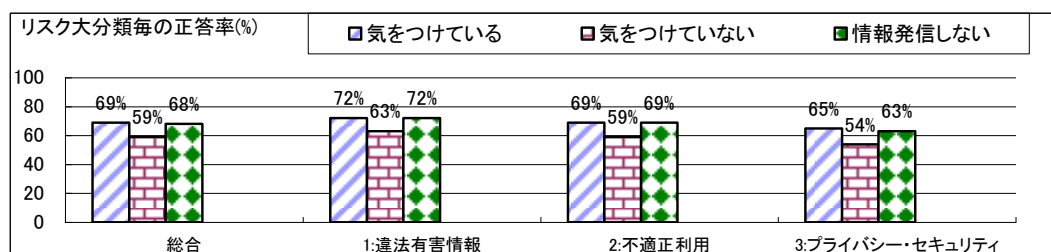
5.3.4 情報公開に関する意識との関係

アンケート08において、インターネット上で情報発信する際の情報公開範囲への配慮がある被験者（「気をつけている」又は「やや気をつけている」と回答した者）の方が、配慮のない被験者（「あまり気をつけていない」又は「全く気をつけていない」と回答した者）に比較して、図表5-29に示すとおり、正答率が相対的に10%程度高かった。

情報の公開の範囲を設定することは、その際にインターネット利用で生ずるリスクについて考える機会となることから、情報公開範囲に気をつけている被験者は、実際にインターネットを利用する場面において学習していることが推測される。

図表5-29 情報公開に関する意識による比較(アンケート08)(n=2,421)

	気をつけて いる	気をつけて いない	情報発信し ない		
人数	1,592人	255人	539人		
総合	69%	59%	68%		
1:違法有害情報	72%	63%	72%		
2:不適正利用	69%	59%	69%		
3:プライバシー・セキュリティ	65%	54%	63%		



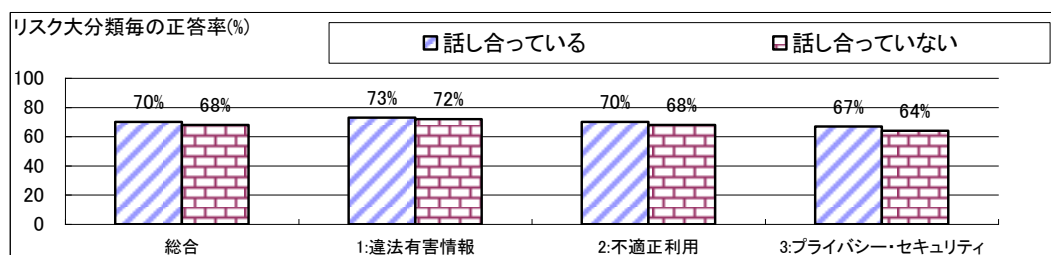
5.3.5 家庭での話し合いの有無との関係

アンケート22で、インターネット上の危険に関して、家庭で「話し合っている（「よく話し合っている」又は「時々話し合っている」）」と回答した被験者と、「話し合っていない（「あまり話し合っていない」又は「話し合ったことがない」）」と回答した被験者との正答率を比較したところ、図表5－30に示すとおり、「家庭で話し合っている」と回答した被験者の正答率が相対的に若干高かった。

家庭での話し合い自体には、学校における授業と比較すれば、最新の事例や適切な対処方法まで知ることにはできないかもしれないが、家庭での話し合いによって危険を認識するだけでもリテラシーを高められるのではと考えられる。

図表5－30 家庭での話し合いの有無による比較(アンケート22)(n=2,247)

	話し合っている	話し合っていない			
人数	742人	1,480人			
総合	70%	68%			
1:違法有害情報	73%	72%			
2:不適正利用	70%	68%			
3:プライバシー・セキュリティ	67%	64%			

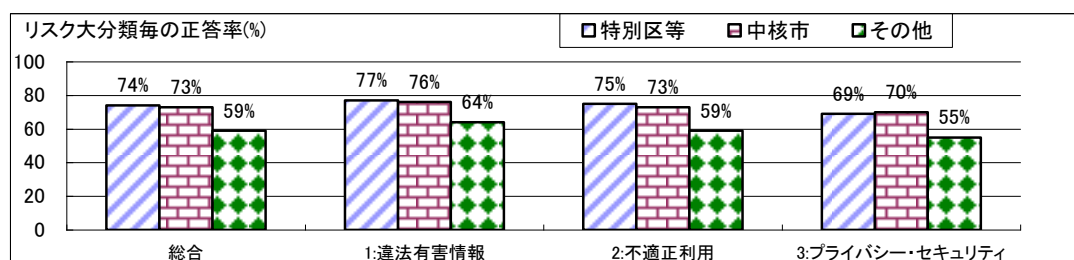


5. 3. 6 協力校の所在地との関係

被験者が所属する学校の所在地別（特別区等、中核市、その他）に平均正答率を比較したところ、図表５－３１に示すとおり、人口の多い都市部に位置する学校の正答率が相対的に高い。この要因としては、都市部の方が、①通信環境がよく整備されていて、インターネットにアクセスしやすいこと、②現実空間でも、各種情報発信の機会に接することが多い、ことなどがあげられる。

図表５－３１ 協力校の所在地による比較(n=2, 464)

	特別区等	中核市	その他		
人数	462人	774人	1,228人		
総合	74%	73%	59%		
1:違法有害情報	77%	76%	64%		
2:不適正利用	75%	73%	59%		
3:プライバシー・セキュリティ	69%	70%	55%		

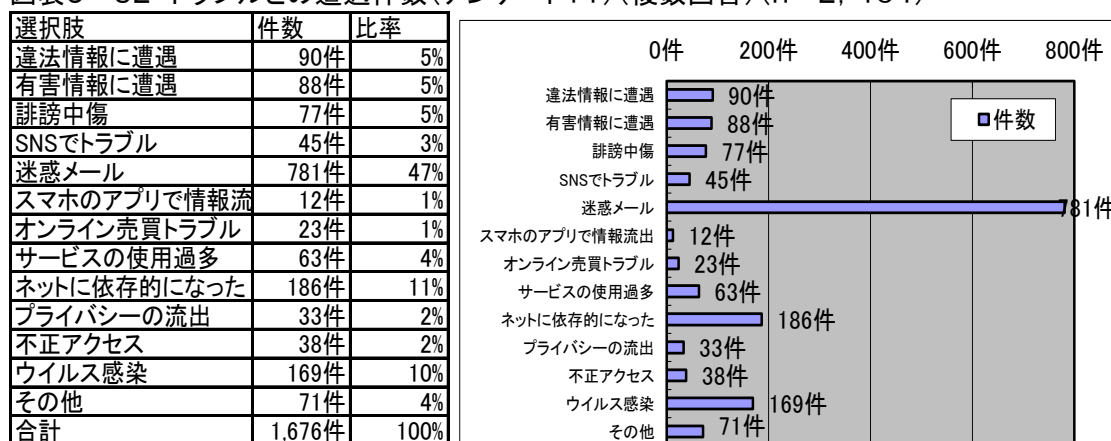


5. 3. 7 トラブル遭遇の有無との関係

(1) トラブルとの遭遇

アンケート１１においてインターネット上でのトラブルと遭遇した経験を複数回答でたずねたところ、１，０１３人（延べ１，６７６件）が遭遇したと回答した。図表５－３２に示すとおり、約半数が迷惑メールの受信である。

図表５－３２ トラブルとの遭遇件数(アンケート11)(複数回答)(n=2, 464)



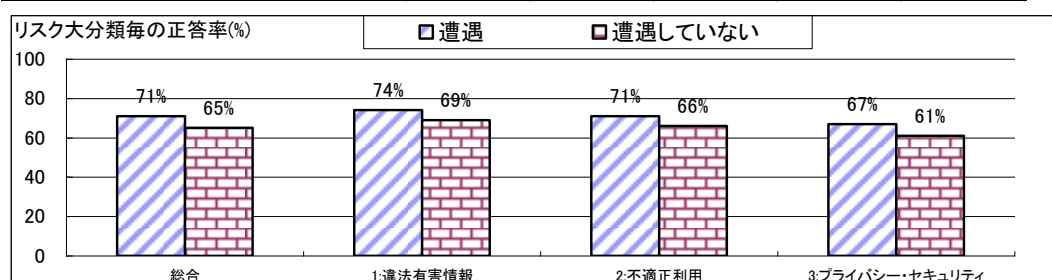
(2) トラブル遭遇の有無による比較

トラブル遭遇の有無により正答率を比較したところ、図表5－33に示すとおり、トラブルに遭遇したと回答した被験者の正答率が相対的に高かった。

この結果については、そもそもリテラシーが高くなければトラブルをトラブルと認識しえないであろうこと、インターネットを活用していればトラブルに遭う可能性は上がること、またトラブルに遭うことによって経験的にリテラシーを高めている生徒がいることが推測できる。

図表5－33 トラブルとの遭遇(アンケート11)(n=2,464)

	遭遇	遭遇していない	無回答		
人数	1,013人	1,390人	61人		
総合	71%	65%	53%		
1:違法有害情報	74%	69%	58%		
2:不適正利用	71%	66%	53%		
3:プライバシー・セキュリティ	67%	61%	49%		



(3) 地域別の内訳

何らかのトラブルに遭遇したと回答した被験者1,013人とトラブルには遭遇していないと回答した被験者1,390人の地域別の割合を調べると、図表5－34に示すとおり、どの地域においても被験者の40%程度であり、特別区等、中核市、その他の間に大きな差は見られなかった。

図表5－34 地域別のトラブルに遭遇した被験者の割合

* アンケート11においてトラブルに遭遇したあるいは遭遇していないと回答した2,403人の内訳

地方自治体区分	遭遇		非遭遇		小計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
特別区等	192人	42%	266人	58%	458人	100%
中核市	318人	42%	448人	58%	766人	100%
その他	503人	43%	676人	57%	1,179人	100%
合計	1,013人	42%	1,390人	58%	2,403人	

5.3.8 学習経験の有無との関係

(1) 学校での授業などの学習経験の有無による比較

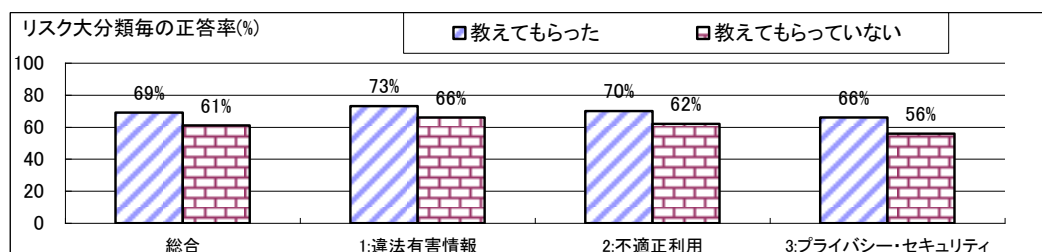
アンケート21において、インターネット上の危険に関して、学校で「教えてもらった」（普通授業と特別授業とその他の合計）と回答した被験者と、「教えてもらっていない」と回答した被験者で正答率を比較した。

その結果、図表5-35に示すとおり、「教えてもらった」と回答した被験者の方が正答率が相対的に高く、これらの授業の有効性を示していると推測される。

なお、上記「教えてもらった」と回答した被験者のうち、35%は普通授業でなく特別授業で教えてもらったと回答しており、政府や民間事業者の外部講師による特別授業が想定される。

図表5-35 授業等受講の有無と正答率(アンケート21)(n=2,247)

	教えてもらった	教えてもらっていない		
人数	1,878人	230人		
総合	69%	61%		
1:違法有害情報	73%	66%		
2:不適正利用	70%	62%		
3:プライバシー・セキュリティ	66%	56%		



(2) 地域別の内訳

教えてもらったと回答した被験者1,878人と、教えてもらっていないと回答した230人の地域別の割合を調べると、図表5-36に示すとおり、その他地域において教えてもらったと回答した割合がやや低い。

図表5-36 地域別の学習経験の割合

* アンケート21において教えてもらったあるいは教えてもらっていないと回答した1,938人の内訳

地方自治体区分	教えてもらった		教えてもらっていない		小計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
特別区等	391人	91%	40人	9%	431人	100%
中核市	662人	91%	68人	9%	730人	100%
その他	825人	87%	122人	13%	947人	100%
合計	1,878人	89%	230人	11%	2,108人	

6. 参考

6. 1主軸法による分析

主軸法を用いて本テストの各問題と3つの大分類カテゴリーとの相関を分析したところ、図表6-01に示すとおり、問30を除き全ての問題について高い関係性があることがわかった。

図表6-01 3つのカテゴリーの主軸法による分析結果

* 因子1:違法有害情報(1a 1b)、因子2:不適正利用(2a 2b 2c)、因子3:プライバシー・セキュリティ(3a 3b)

カテゴリー 中分類		因子パターン		
		因子1	因子2	因子3
1a	問01	0.39	-0.12	-0.03
1a	問08	0.35	0.06	0.00
1a	問15	0.40	-0.05	0.05
1a	問22	0.71	0.01	-0.08
1a	問29	0.26	-0.03	0.12
1a	問36	0.66	-0.08	0.10
1a	問43	0.42	0.02	0.07
1b	問02	0.41	0.07	0.02
1b	問09	0.65	-0.04	-0.10
1b	問16	0.77	-0.05	-0.10
1b	問23	0.14	0.05	0.05
1b	問30	0.12	0.13	0.09
1b	問37	0.41	0.15	-0.02
1b	問44	0.07	0.06	0.04
2a	問03	0.01	0.45	-0.10
2a	問10	-0.11	0.29	0.03
2a	問17	0.07	0.48	-0.08
2a	問24	0.10	0.50	-0.04
2a	問31	-0.05	0.60	0.04
2a	問38	-0.13	0.55	0.11
2a	問45	-0.01	0.61	0.06
2b	問04	0.00	0.48	-0.06
2b	問11	-0.11	0.27	0.08
2b	問18	-0.09	0.44	0.03
2b	問25	-0.06	0.35	0.01
2b	問32	-0.04	0.25	-0.01
2b	問39	0.05	0.32	0.11
2b	問46	-0.10	0.30	0.07
2c	問05	0.10	0.38	-0.07
2c	問12	0.10	0.41	-0.10
2c	問19	0.16	0.49	-0.07
2c	問26	0.04	0.57	-0.01
2c	問33	-0.06	0.43	-0.01
2c	問40	0.02	0.45	0.00
2c	問47	-0.13	0.62	-0.01
3a	問06	0.02	0.03	0.33
3a	問13	-0.04	-0.06	0.36
3a	問20	-0.05	0.01	0.59
3a	問27	0.08	-0.07	0.40
3a	問34	0.15	-0.02	0.57
3a	問41	0.06	-0.07	0.65
3a	問48	-0.02	0.03	0.47
3b	問07	-0.03	0.06	0.34
3b	問14	-0.05	0.00	0.25
3b	問21	-0.07	0.07	0.38
3b	問28	0.02	-0.01	0.55
3b	問35	0.01	-0.05	0.48
3b	問42	-0.13	0.06	0.26
3b	問49	-0.10	0.06	0.74

6. 2 テスト解答時間分布

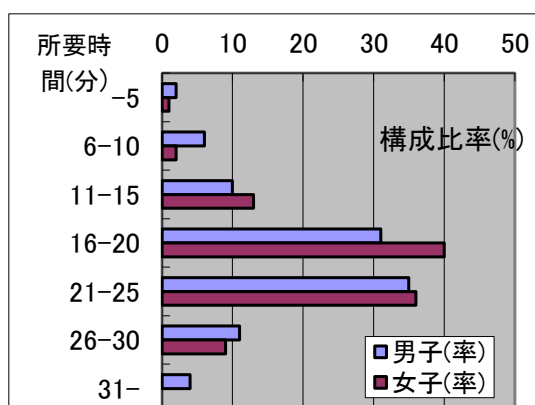
テストの解答時間を調べたところ、図表6－02に示すとおり、16分から25分の間に半数以上の被験者が集中している。

また、男子と女子の解答時間を比較してみたところ、平均回答時間において男女に大きな差はなかった。

・平均回答時間 ：男子 21.1分 女子 20.8分

図表6－02 男子と女子の回答時間比較

所要時間	男子 (度数)	女子 (度数)	男子 (率)	女子 (率)
－5	31	5	2	1
6－10	92	20	6	2
11－15	146	128	10	13
16－20	435	395	31	40
21－25	495	352	35	36
26－30	163	84	11	9
31－	61	4	4	0
合計	1423	988		



6. 3 改善したテスト問題に対する評価

プレテスト結果では、選択枝がうまく機能していないなどの原因により、適切な難易度になっていない問題があることがわかり、それらの問題において修正を行ったところ、適切な難易度になった。

また、問題文の表現が適切でなく、誤解を招く恐れがある問題があったため、それらの問題に関しては、問題の差し替えを行った。これらの改善により、リスク分類との高い相関関係を保ちつつ、信頼性係数が向上し、総得点分布の分散も拡大でき、より適切なテストになったと言える。

7. 今後に向けて

本調査では、約2,500人の高校1年生等を対象として、インターネット・リテラシー、その中でもインターネット上の危険に対応する能力の実態を明らかにすることができた。結果として、半数以上の生徒が平均正答率を超える高得点層に属していることは、我が国青少年のリスク意識の高さ、各種普及啓発施策が一定の成果を上げていることを示せるのではないかとと思われる。

一方で、有害情報リスク、不適正取引リスク、プライバシーリスク、セキュリティリスクについては正答率が7割を割っており、これらについては今後も効果的な普及啓発を行っていく必要がある。また、アンケートでは、スマートフォンという高機能の携帯端末が青少年に急速に普及していることが判明した。スマートフォンは従来の携帯電話と比較して、様々な機能を搭載しており便利である反面、従来はそこまで留意する必要のなかったウィルス感染、プライバシー流出等の様々なリスクも秘めている。

このような状況に鑑みれば、プライバシー対策、セキュリティ対策について青少年の意識を高めることは急務であろう。

特に、都市部に居住する青少年の方が郊外に居住する青少年よりも相対的にリテラシーが高いという結果が出ていることからすれば、今後の地域間格差の解消は大きな課題である。今回判明した相対的な差については、今後も詳細なアンケート等によって原因を分析していく必要があるが、都市部と地域部における情報量の差が大きく影響しているのではないかと考えられる。インターネットの安全利用に関する中央での情報を地域においても適切に共有できるような仕組みづくりが期待される。インターネット上のリスクについて学習経験のある青少年の方が、学習経験のない青少年に比較して相対的にリテラシーが高いという結果が出たことからしても、今後、地域における普及啓発活動は重要である。

さらに、今回の調査でネット上のトラブル経験者（トラブルの大半は迷惑メール受信等）のリテラシーが相対的に高いことが判明した。このような結果からすれば、危険であるからインターネットを利用させないという姿勢ではなく、小さなトラブル経験で大きなトラブルを回避するという姿勢で、保護者の見守りのもと、青少年がインターネットを活用していくことがリテラシーの向上に効果的であると推測される。さらに家庭でインターネット上のリスクについて話し合いをしている青少年のリテラシーが、話し合いをしていない青少年よりいずれの分野においても相対的に若干高いことが判明した。これらの結果からすれば、今後保護者の啓発も重要となるであろう。

今後も、テストの実施時期や学校種によるレベルの違いなどを考慮に入れ、本件取組を継続的に行い、その結果を生徒、保護者および学校関係者にフィードバックするとともに、得られたデータを分析・評価することにより、政府自治体における政策や民間による取組に反映させて行くことが重要と思われる。

以 上

添付1. 事前アンケート

- ◆事前アンケート兼回答用紙◆ ユーザIDを記入して下さい。
○印の選択肢はいずれか一つ、○印の選択肢は複数選択可能です。

c	e	d					
---	---	---	--	--	--	--	--

・パソコンが使用できない場合はこの用紙が回答用紙となります。

質問01. あなたの性別を教えてください。

- (1)○ 男性 (2)○ 女性

質問02. あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。(複数選択可)

- (1)○ PHS (2)○ 携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ タブレットPC (5)○ ノートPC
(6)○ デスクトップPC (7)○ 携帯ゲーム機 (8)○ 固定ゲーム機 (9)○ 何も持っていない

質問03. 質問02の機器の中で最もよく利用する機器はどれですか。(一つだけ)

- (1)○ PHS (2)○ 携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ タブレットPC (5)○ ノートPC
(6)○ デスクトップPC (7)○ 携帯ゲーム機 (8)○ 固定ゲーム機 (9)○ 何も持っていない

質問04. あなたがインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの一日の平均使用時間を教えてください。(一つだけ)

機器 (大分類)	機器 (小分類)	一日の平均使用時間
携帯電話	PHS 041	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
	携帯電話 042	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
	スマートフォン 043	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
PC	タブレットPC 044	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
	ノートPC 045	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
	デスクトップPC 046	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
ゲーム機	携帯ゲーム機 047	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上
	固定ゲーム機 048	(1)○ 30分未満 (2)○ 2時間未満 (3)○ 2時間以上

質問05. あなたが利用経験のある目的を次の中から選び、その際によく利用する機器にチェックを入れて下さい。(複数選択可)

利用目的	利用機器
情報収集 (ニュースの閲覧等) 051	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機
オンラインゲーム 052	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機
SNSの利用 053	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機
メールのやりとり 054	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機
商品の購入等 055	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機
その他 056	(1)○ PHS (2)○ 従来の携帯電話 (3)○ スマートフォン (4)○ PC (5)○ ゲーム機

質問06. あなたは、下記のサービス・機能を知っていますか(持っていない端末についても答えて下さい)。(一つだけ)

*従来の携帯電話・PHS・スマートフォンに関連するサービス・機能

フィルタリングサービス 061	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
迷惑メール拒否サービス 062	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない

*スマートフォンに関連するサービス・機能

フィルタリングアプリ 063	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
アプリ制限アプリ 064	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
端末等のペアレンタルコントロール機能 065	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
端末等のプライバシー設定機能 066	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
セキュリティアプリ 067	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない

*PCに関連するサービス・機能

フィルタリングソフト 068	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
端末等のプライバシー設定機能 069	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない
セキュリティソフト 06A	(1)○よく知っている (2)○多少知っている (3)○余り知らない (4)○全く知らない

質問07. あなたは下記のサービス・機能を利用していますか。(利用している機器についてご記入下さい) (一つだけ)

*従来の携帯電話・PHS・スマートフォンに関連するサービス・機能

フィルタリングサービス 071	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
迷惑メール拒否サービス 072	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。

*スマートフォンに関連するサービス・機能

フィルタリングアプリ 073	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
アプリ制限アプリ 074	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
端末等のペアレンタルコントロール機能 075	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
端末等のプライバシー設定機能 076	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
セキュリティアプリ 077	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。

*PCに関連するサービス・機能

フィルタリングソフト 078	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
端末等のプライバシー設定 079	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。
セキュリティソフト 07A	(1)○利用している (2)○利用していない (3)○以前利用していたが今は利用していない (4)○利用していないが、今後利用しようと思う。

質問08. あなたは、SNSやブログ等によりインターネットで情報を発信する際に情報公開の範囲に気がつけていますか。(一つだけ)

- (1) ☐ 気をつけている
- (2) ☐ やや気をつけている
- (3) ☐ あまり気をつけていない
- (4) ☐ 気をつけていない
- (5) ☐ 情報公開の範囲を設定できることを知らなかった
- (6) ☐ 情報発信していない

質問09. あなたは青少年の安全なインターネット利用のための、以下のいずれかの取組を知っていますか。また取組に参加、もしくは利用されたことがありますか(複数選択可)。

- (1) ☐ e ネットキャラバンの講座を受講したことがある
- (2) ☐ 情報通信の安心安全利用のための標語に応募したことがある
- (3) ☐ 安心ネットづくり促進協議会の取組を知っている
- (4) ☐ 第三者機関EMAの取組を知っている。
- (5) ☐ 携帯電話事業者の啓発講座を受講したことがある
- (6) ☐ SNS事業者の啓発アプリを利用したことがある
- (7) ☐ その他の普及啓発の取組
- (8) ☐ どれも参加・利用したことがない

質問10. あなたは青少年の安全なインターネット利用のための、以下のいずれかの取組を知っていますか。(複数選択可)

- (1) ☐ SNS事業者がゾーニング(青少年が利用できるものと、利用できないものを区分し、適切なものだけ利用できるようにする方法)を行っていることを知っている
- (2) ☐ SNS事業者が投稿監視等のパトロールを行っていることを知っている
- (3) ☐ SNS事業者が、利用者の同意を取得してミニメールの内容を確認していることを知っている
- (4) ☐ SNS事業者が年齢に応じた機能制限(ミニメールの禁止等)を行っていることを知っている。
- (5) ☐ SNS事業者が利用規約違反の利用者にペナルティを課す制度を知っている。
- (6) ☐ どの取組も知らない

質問11. あなたはインターネット上でトラブルにあったことがありますか(複数選択可)

- (1) ☐ 違法情報に遭遇した
- (2) ☐ 有害情報に遭遇した
- (3) ☐ 誹謗中傷を受けた
- (4) ☐ SNSで知り合った人物とトラブルになった
- (5) ☐ 迷惑メールを受け取った
- (6) ☐ スマートフォンのアプリで情報が流出した
- (7) ☐ オンライン上の売買でトラブルになった
- (8) ☐ インターネット上のサービスを使い過ぎてしまった
- (9) ☐ インターネットに依存的になってしまった
- (10) ☐ プライバシーが流出した
- (11) ☐ 不正アクセスを受けた
- (12) ☐ ウィルスに感染した
- (13) ☐ その他
- (14) ☐ その他
- (15) ☐ トラブルにあったことはない

質問12. あなたは、インターネットの安心安全利用について学びたいと思いますか。(一つだけ)

- (1) ☐ 学びたい
- (2) ☐ どちらかというと学びたい
- (3) ☐ どちらともいえない
- (4) ☐ どちらかというと学びたくない
- (5) ☐ 学びたくない
- (6) ☐ わからない

質問13. インターネット上の危険を回避するためには、一人一人がインターネットの安心安全利用について学ぶ必要があると思いますか(一つだけ)

- (1) ☐ そう思う
- (2) ☐ どちらかというとそう思う
- (3) ☐ どちらともいえない
- (4) ☐ どちらかというとそう思わない
- (5) ☐ そう思わない
- (6) ☐ わからない

添付2. 事後アンケート

◆事後アンケート◆

○印の選択肢はいずれか一つ、□印の選択肢は複数選択可能です。

- ・事後アンケートは別紙の事後アンケート回答用紙に記入して下さい。
- ・事後アンケートはインターネットを利用する際に使用している機器に応じて質問項目が異なります。
- ・全員、質問14～質問22までは必ず回答して下さい。
- ・スマートフォンを利用、保有されている方はその後の質問全て回答して下さい(質問23～質問37)。
- ・スマートフォンを利用、保有されていない方は、質問23～質問25まで回答して下さい。

質問14. テストの問題数はちょうどよかったと思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 多かった (2) ☐ どちらかと言うと多かった (3) ☐ ちょうどよかった
(4) ☐ どちらかと言うと少なかった (5) ☐ 少なかった

質問15. テスト時間はちょうどよかったと思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 長かった (2) ☐ どちらかと言うと長かった (3) ☐ ちょうどよかった
(4) ☐ どちらかと言うと短かった (5) ☐ 短かった

質問16. テストの難易度はちょうどいい難易度だったと思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 難しかった (2) ☐ どちらかと言うと難しかった (3) ☐ ちょうどよかった
(4) ☐ どちらかと言うと簡単だった (5) ☐ 簡単だった

質問17. 分からない用語がありましたか。(1つだけ、分からない用語を覚えていたら、回答欄に具体的にご記載下さい。)

- (1) ☐ なかった (2) ☐ 1, 2語あった (3) ☐ 2, 3語あった
(4) ☐ 4, 5語あった (5) ☐ 6語以上あった

質問18. あなたはインターネットの安心安全利用についてもっと学びたいと思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 学びたい (2) ☐ どちらかと言うと学びたい (3) ☐ どちらとも言えない
(4) ☐ どちらかと言うと学びたくない (5) ☐ 学びたくない (6) ☐ わからない

質問19. 今回のテストは、今後あなたがインターネットを安心安全に利用するために役立つと思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 役立つと思う (2) ☐ どちらかと言うと役立つと思う (3) ☐ どちらとも言えない
(4) ☐ どちらかと言うと役立つと思う (5) ☐ 役立つと思う (6) ☐ わからない
(7) ☐ 回答をみてみないと分からない

質問20. 今回のテストを踏まえて、インターネット上の危険を回避するためには、一人一人がインターネットの安心安全利用について学ぶ必要があると思いますか。(1つだけ)

- (1) ☐ そう思う (2) ☐ どちらかというと思う (3) ☐ どちらともいえない
(4) ☐ どちらかというと思う (5) ☐ そう思わない (6) ☐ わからない
(7) ☐ 回答をみてみないと分からない

質問21. あなたはインターネット上の危険について学校で教えてもらったことがありますか。(1つだけ)

- (1) ☐ 通常授業の中で教えてもらった
(2) ☐ 特別授業の中で教えてもらった
(3) ☐ その他、事後アンケート回答用紙のフリー記述欄に60字未満で記入して下さい。>
(4) ☐ 教えてもらっていない

質問22. あなたは、インターネット上の危険について家庭で話していますか。(1つだけ)

- (1) ☐ よく話合っている (2) ☐ 時々話合っている (3) ☐ あまり話合ったことがない
(4) ☐ 話し合ったことがない

<以下の質問は、PHS・携帯電話・スマートフォンを利用している方にお聞きします>

質問23. あなたは携帯電話・PHS・スマートフォンを購入・利用する際、フィルタリングの利用について保護者と話しましたか。(1つだけ)

- (1) ☐ 話し合っている
(2) ☐ 話し合っていない
(3) ☐ 話し合っていたが、現在はフィルタリングを解除している
(4) ☐ 話し合っていないが利用している
(5) ☐ 話し合わずに利用していたが、現在はフィルタリングを解除している
(6) ☐ 話し合わず利用していない

質問24. あなたはPHS・携帯電話・スマートフォンを購入する際、販売店でフィルタリングの説明を受けましたか。(1つだけ)

- (1) ☐ 説明を受けた (2) ☐ 説明を受けていない (3) ☐ 携帯電話の購入に同席していない

質問25. 質問24で説明を受けたと回答した方にお聞きします。あなたはフィルタリングについての説明を理解できましたか。(1つだけ)

- (1) ☐ 理解できた (2) ☐ ある程度理解できた (3) ☐ あまり理解できなかった
(4) ☐ 理解できなかった

<スマートフォンを利用している方は裏面の質問もお願いします>

質問26. あなたはスマートフォンで無線LANと3G回線のどちらを多く利用しますか。(1つだけ)

- (1) ☐ ほぼ無線LANしか使用しない (2) ☐ どちらかという無線LANを多く利用する
(3) ☐ 無線LANと3Gと同じくらい利用する (4) ☐ どちらかという3Gを多く利用する
(5) ☐ ほぼ3Gしか利用しない (6) ☐ 無線LANと3Gの違いが分からない

質問27. あなたがスマートフォンで無線LANを使う理由をいくつでも選んで下さい。(複数選択可)

- (1) ☐ 意識はしていないけれど自動的に切り替わるので (2) ☐ 無料の公衆無線LANが身近にあるので
(3) ☐ 自宅で無線LANが使用できるので (4) ☐ 接続料金が安いので
(5) ☐ 接続速度が速いので (6) ☐ 大容量のデータも送信できるので
(7) ☐ フィルタリングがかかっていない場合があるので (8) ☐ 3G回線がつかない場所があるので

質問28. あなたがスマートフォンでよく使っている無線LAN回線の場所、種類をいくつでも選んで下さい。(複数選択可)

- (1) ☐ 自宅で契約している無線LAN
(2) ☐ 携帯電話会社が提供している公衆無線LANやWi-Fiスポット等
(3) ☐ 駅、お店、街中などで使える無料の公衆無線LAN
(4) ☐ 駅、お店、街中などで使える有料の公衆無線LAN
(5) ☐ 公衆無線LAN意外のたまたまセキュリティのかかっていない無線LAN
(6) ☐ どの回線を使用しているか分からない、意識していない

質問29. あなたはスマートフォンでインターネットに接続する際、様々なサイトを閲覧できるブラウザをよく使いますか。それとも、個別のサイトに特化したアプリをよく使いますか。(1つだけ)

- | | |
|--|---|
| (1) ☐ ほぼブラウザしか利用しない | (2) ☐ どちらかというとブラウザを多く利用する |
| (3) ☐ ブラウザとアプリを同じくらい利用する | (4) ☐ どちらかというとアプリを多く利用する |
| (5) ☐ ほぼアプリしか利用しない | (6) ☐ ブラウザとアプリの違いが分からない |

質問30. あなたのスマートフォンの中には現在どれくらいの数のアプリがインストールされていますか。(1つだけ)

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| (1) ☐ 0～10個 | (2) ☐ 10～20個 |
| (3) ☐ 20～40個 | (4) ☐ 40個以上 |
| (5) ☐ 分からない | |

質問31. 上記のうち、あなたがよく使う(一か月に一回以上)アプリケーションはどれくらいの数ですか。(1つだけ)

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| (1) ☐ 0～10個 | (2) ☐ 10～20個 |
| (3) ☐ 20～40個 | (4) ☐ 40個以上 |

質問32. あなたはスマートフォンを購入・利用する際、プライバシー設定について保護者と話しましたか。(一つだけ)

- | | |
|---|--|
| (1) ☐ 話し合って設定している | (2) ☐ 話し合って設定していない |
| (3) ☐ 話し合って設定していたが、現在は設定していない | (4) ☐ 話し合っていないが設定している |
| (5) ☐ プライバシー設定がなにか分からない。 | (6) ☐ 話し合っていないし設定していない |

質問33. あなたはスマートフォン上でダウンロードしたアプリケーションを利用して不安と感じたことがありますか。ある場合、どのような不安を感じたことがありますか。(複数選択可)

- (1) ☐ スマートフォンの動作が遅くなりそうで不安
(2) ☐ 電池の消費が早くなりそうで不安
(3) ☐ 色々な情報が取られていそうで不安
(4) ☐ ウィルスに感染しないか不安
(5) ☐ アプリケーション利用の際に十分なサポート体制がないので不安 (問い合わせ窓口が分からないなど)
(6) ☐ その他の不安がある<事後アンケート回答用紙のフリー記述欄に60字未満で記入して下さい。>
(7) ☐ 不安を感じたことはない

質問34. インストールしたアプリケーションがあなたのスマートフォンの端末情報にアクセスしたり、端末情報を外部に送信したりする可能性があることを知っていましたか。(1つだけ)

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) ☐ よく知っていた | (2) ☐ 何となく知っていた |
| (3) ☐ あまり知らなかった | (4) ☐ まったく知らなかった |

質問35. インストールしたアプリケーションがあなたのスマートフォンの端末情報にアクセスしたり、端末情報を外部に送信したりする可能性があることをについてどう思いますか。(複数選択可)

- | | |
|--|---|
| (1) ☐ 特に気にならない | (2) ☐ サービスの向上に繋がるのであれば問題ない |
| (3) ☐ 端末情報の利用目的が示されていれば問題ない | (4) ☐ 端末情報の情報提供先が示されていれば問題ない |
| (5) ☐ 端末情報の利用目的と情報提供先が示されていれば問題ない | (6) ☐ 絶対に外部に情報送信されたくない |

質問36. あなたはスマートフォンのアプリケーションを利用する際に、プライバシーポリシー・利用規約を読んでいますか。(1つだけ)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| (1) ☐ 読んでいる | (2) ☐ 多少読んでいる |
| (3) ☐ あまり読んでいない | (4) ☐ 読んでいない |
| (5) ☐ アプリケーションを利用しない | |

質問37. 問36で読んでいると答えた方におききます。プライバシーポリシー・利用規約を理解できますか。(1つだけ)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| (1) ☐ 理解できる | (2) ☐ 多少理解できる |
| (3) ☐ あまり理解できない | (4) ☐ 理解できない |

ありがとうございました。